

データマップエディタの操作

1. CSV データマップ	4
1-1. 概要	4
1-2. 基本操作	4
1-2-1. Datemap エディタの起動	4
1-2-2. マッピング	6
1-2-3. 変数操作	7
1-2-4. フォームビューア	8
1-2-5. 改ページ設定	8
1-2-6. 集計値設定	9
1-2-7. 表オブジェクトの詳細マッピング	9
1-3. ヘッダマッピング	9
1. ヘッダ領域設定	9
2. ヘッダ領域のマッピング	10
3. 出力範囲の指定	10
1-4. 自動マッピング	10
1. CSV データファイルの準備	10
2. 自動マッピング	11
2. TXT データマップ	13
2-1. 概要	13
2-2. 基本操作	13
2-2-1. Datemap エディタの起動	13
2-2-2. マッピング	15
2-2-3. 変数操作	16
2-2-4. フォームビューア	17
2-2-5. 改ページ設定	17
2-2-6. 集計値設定	18
2-3. 行分割マッピング	18
3. XML データマップ	19
3-1. 概要	19
3-2. 基本操作	19
3-2-1. Datemap エディタの起動方法とエディタの構成	20
3-2-2. マッピング操作モードの切り替え	23
3-2-3. データマッピングとデータマッピングの解除	23
3-2-4. 変数の追加	25
3-2-5. 未定義変数とツリーアイテムの保存	26
3-2-6. フォームビューア (FormViewer)	27
3-2-7. ドキュメントビューア	27
3-2-8. 自動マッピング	28
3-2-9. データ取得要素の指定	29
3-3. XML での改ページ設定について	30

3-4. ヘッダマッピング	32
1. 概要	32
2. ヘッダマッピングの設定	32
3. 出力範囲の設定	32
3-5. 定型 XML	33
1. 概要	33
3-6. 注意事項	34
3-6-1. ランタイム実行時のオプション	34
4. DB データマップ	35
4-1. 概要	35
4-2. 基本操作	35
4-2-1. Datamap エディタの起動方法とエディタの構成	36
4-2-2. データベース設定	37
4-2-3. データマッピングとデータマッピングの解除	38
4-2-4. マッピングされたフィールド番号をずらす	39
4-2-5. カラムの手動追加	39
4-2-6. 変数の追加と削除	41
4-2-7. フォームビューア (FormViewer)	42
4-2-8. 自動マッピング	42
4-2-9. ファイルデータソースの使用	43
4-3. 重複非表示	44
1. 概要	44
2. 重複非表示の設定方法	45
3. 補足事項	45
4-4. 集計	47
4-4-1. 概要	47
4-4-2. 集計値の出力	47
4-4-3. 総集計値の出力	48
4-4-4. 集計データの編集	49
4-4-5. 集計行への文字列の出力	50
4-5. キーブレイク	51
4-5-1. 概要	51
4-5-2. キーブレイクによる集計を行う	56
4-5-3. キーブレイクによる集計行をページ内に収める	58
4-5-4. キーブレイクによる改ページを行う	60
4-5-5. キーブレイクによる改行を行う	61
4-5-6. キーブレイクによる罫線描画を行う	61
4-6. 単一データ出力	63
4-6-1. 単一データ出力	63
4-6-2. 総集計値の单一データ出力	64
4-7. 総ページ数	65
5. 共通設定	68
5-1. 変数操作	68
5-1-1. 変数インポート	68
5-1-2. リストアイテム削除	69

5-1-3. マッピング解除	69
5-2. フォームビューア	69
5-2-1. フォームビューアの起動	70
5-2-2. マッピング操作	70
5-2-3. 変数インポート	70
5-3. 変数リスト	71
5-3-1. マッピング定義	71
5-3-2. 変数リスト印刷	71

1. CSV データマップ

1-1. 概要

Form エディタで定義した変数オブジェクトに CSV ファイルから取得したデータを出力する場合、CSV 用 Datamap エディタを使用して変数とデータの関連付けを行います。

データファイルとして CSV ファイルを使用する場合の特徴は以下の通りです。

■ヘッダマッピング

データファイルの先頭行から指定行数のデータを特別に扱うことができ、1 ページ目のみ又は全ページに出力することができます。

詳細は、「1-3. ヘッダマッピング」をご覧ください。

■自動マッピング

Form ファイルで定義した変数名を CSV ファイルのデータとして用意することで、全ての変数を一括で自動的にマッピングすることができます。

詳細は、「1-4. 自動マッピング」をご覧ください。

1-2. 基本操作

CSV 用 Datamap エディタの基本操作を解説します。

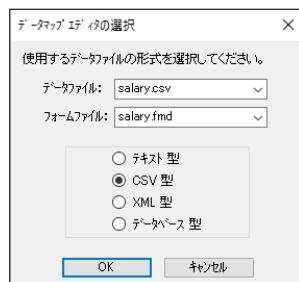
なお、この章では「CSV 用 Datamap エディタ」を「Datamap エディタ」と表記します。

1-2-1. Datamap エディタの起動

Datamap エディタにてマッピングを定義する前に、データファイル (CSV ファイル) の作成、Job ファイルの作成、Form エディタでのレイアウト作成を行ってください。

マネージャで Job ファイルを、データファイルリストから Datamap ファイルに設定するデータファイルをそれぞれ選択してツールボタン [データマップ編集] をクリックすると [データマップエディタの選択] ダイアログが起動します。

図：データマップエディタの選択ダイアログ



[データファイル] にデータファイルリストで選択した CSV ファイル名が、[フォームファイル] にはジョブ詳細画面で選択した Form ファイル (.fmd) 名が表示されることを確認してください。データファイルの形式として [CSV 型] を選択して [OK] ボタンをクリックすると、Datamap エディタが起動します。

図：Datamap エディタ



Datamap エディタの画面構成は以下の通りです。

①ツールメニュー

Datamap エディタの各種設定を行うことができます。

②ツールボタン

ツールメニューで頻繁に使用される機能を使用することができます。

③パラメータバー

変数名リストで選択されている変数のマッピング情報を表示します。

④変数リスト

Form エディタで定義した変数オブジェクトの変数名が表示されます。

⑤マッピングウィンドウ

データファイルリストで選択したファイルの内容が表示されます。白色で表示されている領域のみマッピング操作を行うことができます。

1-2-2. マッピング

マッピングとは、Form ファイルで定義した変数に表示するデータの取得位置を定義する操作です。マッピングの基本的な操作方法を解説します。

マッピングを定義する

1. 変数リストからデータと結びつける変数をクリックして選択します。
 2. マッピングウィンドウ上で目的のデータをドラッグします。パラメータバーには選択した [行] と [項目番号] が自動で設定されます。
 3. 一時的なマッピング領域が赤い線で表示されますので、マッピング領域が正しいことを確認してください。
 4. 正しければマウスの左ボタンをクリックします。(正しくなければマウスの右ボタンをクリックして、一時的なマッピング領域をキャンセルします。)
- ※左クリックでマッピングを確定すると、変数リストは自動的に次の変数に移動します。

図：マッピング操作



一時的なマッピング領域

180	5	3	帳票	次郎
帳票統括部	帳票グループ	帳票	次郎	
18000	3000	1000		
25000	4000	15000		
175	3	5		
ソリューション	ウェブ開発	グループ	帳票	はなこ
55000	2000	1000		
30000	2000	18000		

マッピング領域の確定

180	5	3	帳票	次郎
帳票統括部	帳票グループ	帳票	次郎	
18000	3000	1000		
25000	4000	15000		
175	3	5		
ソリューション	ウェブ開発	グループ	帳票	はなこ
55000	2000	1000		
30000	2000	18000		

マッピング領域を確認する

変数に定義したマッピング領域を確認するには変数リストから目的の変数をクリックします。マッピングウィンドウ上で赤く囲まれた範囲が変数に設定されたマッピング領域です。

マッピングを解除する

設定したマッピング領域を取り消したい場合には、変数リストで変数を選択し（複数選択可）、Datamap エディタのメニュー [編集]-[マッピング解除] をクリックします。

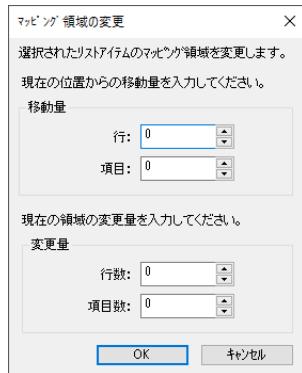
複数の変数を同時にマッピングする

複数の変数を同時にマッピングしたいときは、変数リストで変数を複数選択し、マッピング操作を行います。

複数変数のマッピング領域を一括で変更する

複数の変数のマッピング領域を一括で変更することができます。変数リストから、マッピング領域を変更したい変数を全て選択し、Datamap エディタのメニュー [編集]-[マッピング領域の変更] をクリックします。[マッピング領域の変更] ダイアログでマッピング領域の移動やマッピング領域のサイズ変更が可能です。

図：マッピング領域の変更ダイアログ



マッピング領域の移動

マッピング領域の位置を移動したい場合には、[マッピング領域の変更]ダイアログで[移動量]の[行]と[項目]に移動量を入力し[OK]をクリックしてください。

2つの変数に対して[項目]を1に設定した場合は次の図のように、マッピング領域が右に1項目ずれます。

図：マッピング領域の移動

180	5	3	8	0
帳票統括部	帳票グループ	帳票	次郎	8
18000	3000	1000	1000	
25000	4000	15000	9000	
175	3	5	0	
ソリューションウェブ開発グル	帳票	はなこ	8	
55000	2000	1000	3000	



180	5	3	8	0
帳票統括部	帳票グループ	帳票	次郎	8
18000	3000	1000	1000	
25000	4000	15000	9000	
175	3	5	0	
ソリューションウェブ開発グル	帳票	はなこ	8	
55000	2000	1000	3000	

マッピング領域のサイズ変更

マッピング領域のサイズを変更したい場合には、[マッピング領域の変更]ダイアログで[変更量]の[行数]と[項目数]に変更量を入力し[OK]ボタンをクリックしてください。

2つの変数に対して[行数]を1に設定した場合は次の図のように、マッピング領域が下に1行分広がります。

図：マッピング領域のサイズ変更

180	5	3	8	0
帳票統括部	帳票グループ	帳票		
18000	3000	1000		
25000	4000	15000		
175	3	5		
ソリューションウェブ開発グル	帳票			
55000	2000	1000		



180	5	3	8	0
帳票統括部	帳票グループ	帳票		
18000	3000	1000		
25000	4000	15000		
175	3	5		
ソリューションウェブ開発グル	帳票			
55000	2000	1000		

1-2-3. 変数操作

変数インポート

Datamap ファイルを新規作成する場合には、作成時に Form ファイルを指定することで自動的に定義された変数が取り込まれます。しかし、既に作成された Datamap ファイルに対して、Form ファイルで新たに定義した変数を取り込むには、変数のインポート作業が必要です。

変数インポートの詳細は、「5-1. 変数操作」をご覧ください。

変数名の編集

一度データマップを編集した後、Formエディタで変数名を修正した場合、「5-1-1. 変数インポート」で設定変更した変数をインポートしてマッピングしなおしてください。この時、変数名変更前の変数をあらかじめ変数リストから削除しておきます。変数の削除については「5-1-2. リストアイテム削除」をご覧ください。

変数の並び替え

作成済みのDatamapファイルを修正する場合、定義されている変数が多いと変数リストから目的の変数を見つけることが難しい場合があります。このような場合には、変数リストに表示されている変数を並び替えます。

変数の並び替えはDatamapエディタのメニュー[表示]-[変数の整列]でパラメータバーに表示された変数の定義内容別（変数名順、種別順、属性順）に行うことができます。変数リストのタイトルをクリックしても同様の結果になります。例えば、変数名順に並び替えたいならば、変数リストの「変数名」タイトルをクリックしてください。

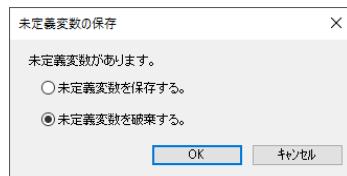
未定義のデータを保存する

Datamapファイルの保存時にマッピングされていない変数がある場合、[未定義変数の保存]ダイアログが表示されます。

[未定義変数を保存する]を選択して[OK]ボタンをクリックすると、未定義のまま変数を保存します。未定義の変数を保存した場合、次回作業時に未定義の変数を再編集することができます。また、[未定義変数を破棄する]を選択して[OK]ボタンをクリックすると、未定義の変数は削除され、次回作業時には変数リストに表示されません。

なお、表オブジェクトは未定義の変数として保存することはできません。

図：未定義変数の保存ダイアログ



1-2-4. フォームビューア

Datamapエディタのメニュー[オプション]-[フォームビューア]をクリックすると、フォームビューアが起動します。フォームビューアには、[データマップ設定]で指定されたFormファイル（フォーム名）のオブジェクトがプレビュー表示されます。

これらのオブジェクトを選択することで、変数及びマッピング領域を確認することができます。また、変数リストにない変数（オブジェクト）が存在する場合、フォームビューア上のオブジェクトをダブルクリックすることでインポートすることができます。

※フォームビューアの詳細は、「5-2. フォームビューア」をご覧ください。

1-2-5. 改ページ設定

データファイルとしてCSVファイルを使用する場合、データの行数で改ページを行ったり、改ページ文字を指定して改ページを行うことができます。

※改ページの詳細は、マネージャのメニュー[ヘルプ]-[オンラインマニュアル]から「3. 機能リファレンス」-「3.5 改ページとフォームの切り替え」-「改ページ」をご覧ください。

1-2-6. 集計値設定

テキスト変数でマッピングした領域のデータを集計して帳票上に出力することができます。

※集計値設定の詳細は、マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.4 集計値の表示とデータ編集」-「テキスト変数の集計値出力」をご覧ください。

1-2-7. 表オブジェクトの詳細マッピング

表オブジェクトのマッピングの詳細は、マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.3 フォームオブジェクト」-「表オブジェクト（表組）」をご覧ください。

1-3. ヘッダマッピング

データファイルの先頭行から指定行数のデータを特別に扱うことのできる機能です。

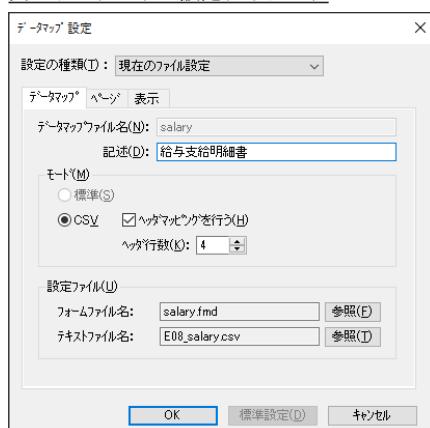
データの先頭行から行数を指定してヘッダマッピングを行えば、そのヘッダマッピングを行った結果を 1 ページ目のみ又は全ページに出力することができます。

1. ヘッダ領域設定

CSV ファイルのヘッダとして扱う領域を設定します。

Datamap エディタのメニュー [ファイル]-[データマップ設定] をクリックし、[データマップ設定] ダイアログを起動します。[データマップ] タブの [モード] で [CSV] が選択されていることを確認してください。[ヘッダマッピングを行う] にチェックを入れ、[ヘッダ行数] を入力します。[ヘッダ行数] には、CSV ファイルの先頭からヘッダとして扱う行数を設定してください。

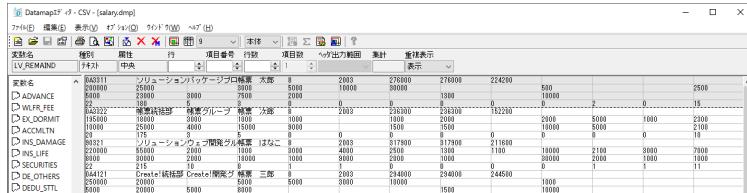
図：データマップ設定ダイアログ



[データマップ設定] ダイアログを [OK] ボタンで閉じると、Datamap エディタのマッピングウィンドウで、先頭から [データマップ設定] ダイアログで設定した [ヘッダ行数] 分がグレーで表示され、マッピングができなくなります。

この状態では、ページごとに異なるデータ（本体と呼びます）をマッピングすることができます。

図 :Datamap エディタ - 本体領域



2. ヘッダ領域のマッピング

全てのページで共通して使用するデータ（ヘッダ）をマッピングするには、Datamap エディタのツールバーで「ヘッダ」を選択してください。

[本体] が選択されていた時とは逆に、先頭から [データマップ設定] ダイアログで設定した [ヘッダ行数] 分の領域がマッピング可能となります。

図 :Datamap エディタ - ヘッダ領域



3. 出力範囲の指定

ヘッダマッピングしたデータを全ページに出力するか、1ページ目のみに出力するかはツールバーの「ヘッダ出力範囲」で設定します。

[ヘッダ出力範囲] を [1ページ] と指定すれば、最初のページにだけデータが出力されます。また、[全ページ] を指定すれば、全てのページにヘッダが出力されます。

1-4. 自動マッピング

通常のマッピング作業では変数1つ1つに対してマッピング領域を設定していきますが、Form ファイルで定義した変数名を CSV ファイルのデータとして用意することで、全ての変数を一括で自動的にマッピングすることができます。

1. CSV データファイルの準備

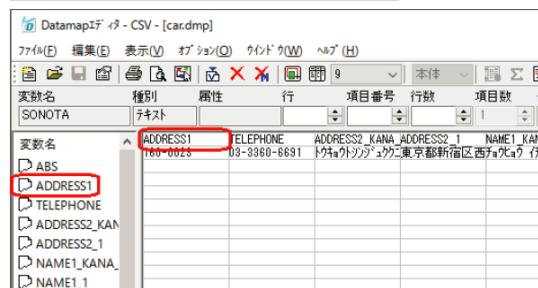
CSV 用 Datamap エディタの自動マッピング機能は、変数名と同じ CSV のデータを自動でマッピングします。まずは、変数名をマッピングする位置に配置した CSV データファイルを作成してください。以下の操作では”帳票資源フォルダ ¥reference¥import¥”の car_sample.csv を使用します。

帳票資源フォルダはマネージャの [ヘルプ]-[バージョン情報]-[バージョン情報詳細] で確認できます。

2. 自動マッピング

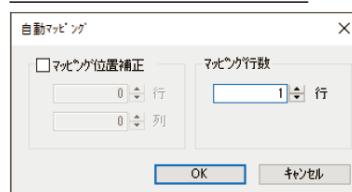
「1. CSV データファイルの準備」で作成した CSV ファイルを指定して Datamap ファイルを作成します。マッピングウィンドウに、「1. CSV データファイルの準備」で作成した CSV ファイルのデータが表示されることを確認してください。

図：Datamap エディタ - 変数名とデータ



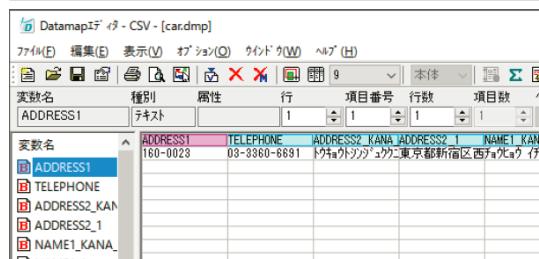
Datamap エディタのメニュー [オプション]-[自動マッピング] をクリックし、[自動マッピング] ダイアログを起動します。

図：自動マッピングダイアログ



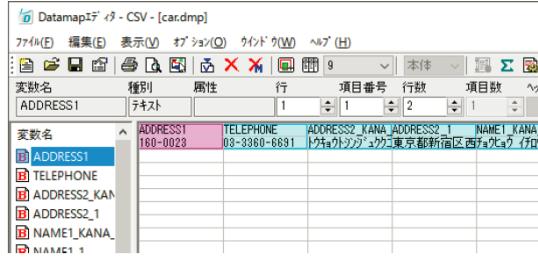
[マッピング行数] に「1」と入力された状態で [OK] ボタンをクリックしてください。
変数名と同じデータ位置に自動でマッピングされます。
※変数名と同じデータが存在しない場合にはマッピングされません。

図：Datamap エディタ - 変数名の位置に自動マッピング



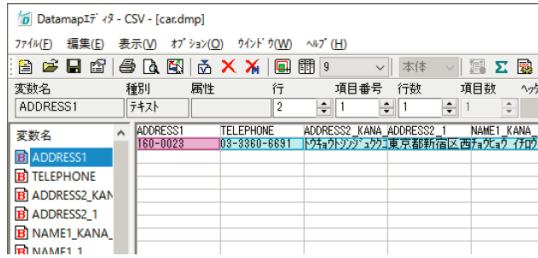
なお、[マッピング行数] に 2 と設定した場合には、変数名と同じデータ位置から 2 行分マッピングされます。

図 :Datamap エディタ - 変数名の位置から 2 行分自動マッピング



また、変数名の 1 つ下のデータをマッピングする場合には、[マッピング位置補正] にチェックを入れ、[行] を「1」に設定してください。

図 :Datamap エディタ - 変数名の 1 行下に自動マッピング



[マッピング位置補正] の [行] と [列] を設定することで、マッピング位置を調節することができます。

2. TXT データマップ

2-1. 概要

Form エディタで定義した変数オブジェクトに Text ファイルから取得したデータを出力する場合、Text 用 Datamap エディタを使用して変数とデータの関連付けを行います。

データファイルとして Text ファイルを使用する場合の特徴は以下の通りです。

■行分割マッピング

1 行のデータを指定された長さで分割し、折り返して出力する行分割マッピング機能を使用することができます。

※行分割マッピングの詳細は、「2-3. 行分割マッピング」をご覧ください。

2-2. 基本操作

Text 用 Datamap エディタの基本操作を解説します。

なお、この章では「Text 用 Datamap エディタ」を「Datamap エディタ」と表記します。

2-2-1. Datamap エディタの起動

Datamap エディタにてマッピングを定義する前に、データファイル (Text ファイル) の作成、

Job ファイルの作成、Form エディタでのレイアウト作成を行ってください。

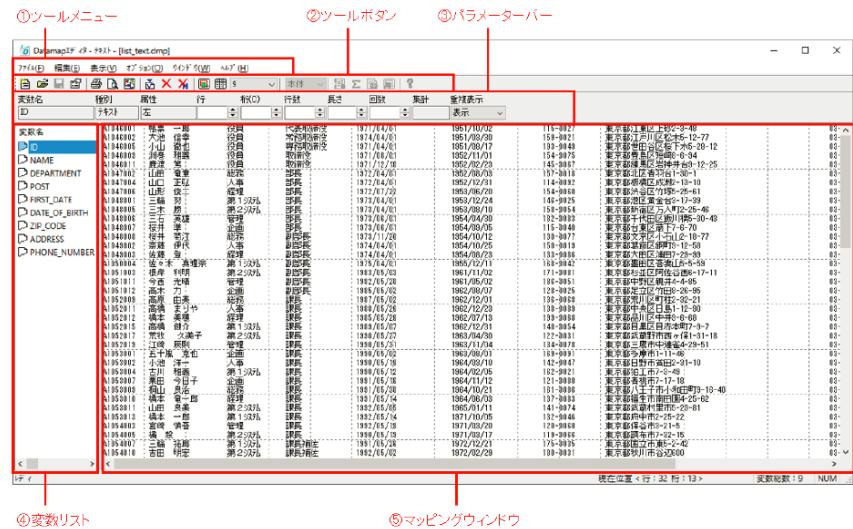
マネージャで Job ファイルを、データファイルリストから Datamap ファイルに設定するデータファイルをそれぞれ選択してツールボタン [データマップ編集] をクリックすると [データマップエディタの選択] ダイアログが起動します。

図：データマップエディタの選択ダイアログ



[データファイル] にデータファイルリストで選択した Text ファイル名が、[フォームファイル] にはジョブユニットリストで選択した Form ファイル (.fmd) 名が表示されることを確認してください。データファイルの形式として [テキスト型] を選択して [OK] ボタンをクリックすると、Datamap エディタが起動します。

図: Datamap エディタ



Datamap エディタの画面構成は以下の通りです。

①ツールメニュー

Datamap エディタの各種設定を行うことができます。

②ツールボタン

ツールメニューで頻繁に使用される機能を使用することができます。

③パラメータバー

変数リストで選択されている変数の属性やマッピング情報を表示します。

④変数リスト

Form エディタで定義した変数オブジェクトの変数名が表示されます。

⑤マッピングウィンドウ

データファイルリストで選択したファイルの内容が表示されます。白色で表示されている領域のみマッピング操作を行うことができます。

2-2-2. マッピング

マッピングとは、Form ファイルで定義した変数に表示するデータの取得位置を定義する操作です。マッピングの基本的な操作方法を解説します。

マッピングを定義する

- 変数リストからデータと結びつける変数をクリックして選択します。
 - マッピングウィンドウ上で目的のデータをドラッグします。パラメータバーには選択した [行]、[桁]、[行数]、[長さ] が自動で設定されます。
 - 一時的なマッピング領域が赤い線で表示されますので、マッピング領域が正しいことを確認してください。
 - 正しければマウスの左ボタンをクリックします。(正しくなければマウスの右ボタンをクリックして、一時的なマッピング領域をキャンセルします。)
- ※左クリックでマッピングを確定すると、変数リストは自動的に次の変数に移動します。

図：マッピング操作



マッピング領域を確認する

変数に定義したマッピング領域を確認するには変数リストから目的の変数をクリックします。マッピングウィンドウ上で赤く囲まれた範囲が変数に設定されたマッピング領域です。

マッピングを解除する

設定したマッピング領域を取り消したい場合には、変数リストで変数を選択し（複数選択可）、メニュー [編集]-[マッピング解除] をクリックします。

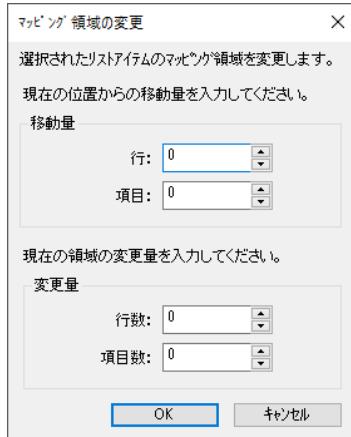
複数の変数を同時にマッピングする

複数の変数を同時にマッピングしたいときは、変数リストで変数を複数選択し、マッピング操作を行います。

複数変数のマッピング領域を一括で変更する

複数の変数のマッピング領域を一括で変更することができます。変数リストから、マッピング領域を変更したい変数を全て選択し、[編集] メニューの [マッピング領域の変更] をクリックします。[マッピング領域の変更] ダイアログでマッピング領域の移動やマッピング領域のサイズ変更が可能です。

図：マッピング領域の変更ダイアログ



マッピング領域の移動

マッピング領域の位置を移動したい場合には、[マッピング領域の変更]ダイアログで[移動量]の[行]と[項目]に移動量を入力し[OK]をクリックしてください。

2つの変数に対して[行]を1に設定した場合は次の図のように、マッピング領域が下に1行ずれます。

図：マッピング領域の移動

009	洲巻 雅義	役員	009	洲巻 雅義	役員
011	鹿渡 驚	役員	011	鹿渡 驚	役員
002	山田 雅章	経務	002	山田 雅章	経務
004	山口 正弘	人事	004	山口 正弘	人事
006	山形 俊二	経理	006	山形 俊二	経理
001	三輪 努	第1次会	001	三輪 努	第1次会

マッピング領域のサイズ変更

マッピング領域のサイズを変更したい場合には、[マッピング領域の変更]ダイアログで[変更量]の[行数]と[項目数]に変更量を入力し[OK]をクリックしてください。

2つの変数に対して[行数]を1に設定した場合は次の図のように、マッピング領域が下に1行分広がります。

図：マッピング領域のサイズ変更

009	洲巻 雅義	役員	009	洲巻 雅義	役員
011	鹿渡 驚	役員	011	鹿渡 驚	役員
002	山田 雅章	経務	002	山田 雅章	経務
004	山口 正弘	人事	004	山口 正弘	人事
006	山形 俊二	経理	006	山形 俊二	経理
001	三輪 努	第1次会	001	三輪 努	第1次会

2-2-3. 変数操作

変数インポート

Datamap ファイルを新規作成する場合には、作成時に Form ファイルを指定することで自動的に定義された変数が取り込まれます。しかし、既に作成された Datamap ファイルに対して、Form ファイルで新たに定義した変数を取り込むには、変数のインポート作業が必要です。

変数インポートの詳細は、「5-1. 変数操作」をご覧ください。

変数名の編集

一度データマップを編集した後、Form エディタで変数名を修正した場合、「5-1-1. 変数インポート」で設定変更した変数をインポートしてマッピングしなおしてください。この時、変数名変更前の変数をあらかじめ変数リストから削除しておきます。変数の削除については「5-1-2. リストアイテム削除」をご覧ください。

変数の並び替え

作成済みの Datamap ファイルを修正する場合、定義されている変数が多いと変数リストから目的の変数を見つけることが難しい場合があります。このような場合には、変数リストに表示されている変数を並び替えます。

変数の並び替えはメニュー [表示]-[変数の整列] でパラメータバーに表示された変数の定義内容別（変数名順、種別順、属性順）に行なうことができます。変数リストのタイトルをクリックしても同様の結果になります。例えば、変数名順に並び替えたい場合は、変数リストの「変数名」タイトルをクリックしてください。

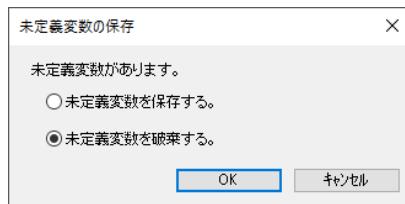
未定義のデータを保存する

Datamap ファイルの保存時にマッピング定義されていない変数がある場合、[未定義変数の保存] ダイアログが表示されます。

[未定義変数を保存する] を選択して [OK] ボタンをクリックすると、未定義のまま変数を保存します。未定義の変数を保存した場合、次回作業時に未定義の変数を再編集することができます。また、[未定義変数を破棄する] を選択して [OK] ボタンをクリックすると、未定義の変数は削除され、次回作業時には変数リストに表示されません。

なお、表オブジェクトは未定義の変数として保存することはできません。

図：未定義変数の保存ダイアログ



2-2-4. フォームビューア

[オプション] メニューから [フォームビューア] をクリックすると、フォームビューアが起動します。フォームビューアには、[データマップ設定] で指定された Form ファイル（フォーム名）のオブジェクトがプレビュー表示されます。

これらのオブジェクトを選択することで、変数及びマッピング領域を確認することができます。また、変数リストにない変数（オブジェクト）が存在する場合、フォームビューア上のオブジェクトをダブルクリックすることでインポートすることができます。

※フォームビューアの詳細は、「5-2. フォームビューア」をご覧ください。

2-2-5. 改ページ設定

データファイルとして Text ファイルを使用する場合、データの行数で改ページを行ったり、改ページ文字を指定して改ページを行うことができます。

※改ページの詳細は、マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.5 改ページとフォームの切り替え」-「改ページ」をご覧ください。

2-2-6. 集計値設定

テキスト変数でマッピングした領域のデータを集計して帳票上に出力することができます。

※集計値設定の詳細は、マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.4 集計値の表示とデータ編集」-「テキスト変数の集計値出力」をご覧ください。

2-3. 行分割マッピング

行分割マッピングとは、1行のデータを指定された長さで分割し、折り返して出力する機能です。この機能は、Datamap ファイルに設定したデータファイルの形式が“テキスト型”的場合のみ使用することができます。

例えば、"1234567890ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ" というデータを、出力時に 10 バイトで折り返すと、出力結果は次のようにになります。

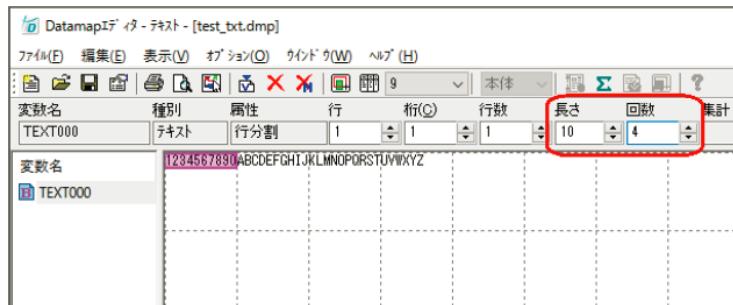
例：1行のデータを 10 バイトで折り返す

1234567890ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ	→	1234567890 ABCDEFGHIJ JKLMNOPQRST UVWXYZ
--------------------------------------	---	---

行分割マッピングを行うには、マッピング情報の「長さ」に折り返す長さを設定し、「回数」に折り返す回数を設定します。上記の例では「長さ」を「10」、「回数」を「4」と定義することで出力可能です。この場合、最大 40 バイトのデータを出力することができます。

※マッピングウィンドウ上では、「長さ」で設定された領域のみがマッピング領域として描画されます。

図：Datamap エディタ - 行分割設定



また、「長さ」を「10」、「回数」を「2」と設定すると、次の例のように 20 バイトまでデータが出力され、それ以降のデータは出力されません。

例：1行のデータを 10 バイトで 2 回折り返す

1234567890ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ	→	1234567890 ABCDEFGHIJ
--------------------------------------	---	--------------------------

3. XML データマップ

3-1. 概要

Create!Form では XML データを使用したデータマッピングに対応しています。

XML データは要素として XML データ内に存在しているため、通常のテキストや CSV といったデータファイルとのデータマッピングとは操作が異なります。XML データを使用してデータマッピングを行う際は、XML 用 Datamap エディタを使用します。XML 用 Datamap エディタはフォームに含まれる変数と XML データの要素をマッピングします。また、他にも XML データの要素をキーとした改ページの設定や、ユニット切り替えの設定、動的オブジェクトの設定などがあります。

XML データとデータマッピングをする場合の特徴は以下の通りです。

■マッピング操作モード

XML データの各要素は XML ツリーとして表示されます。この XML ツリーに対してデータマッピングや改ページ設定、XML ツリーの操作などを行います。これらの操作に応じて XML 用 Datamap エディタでは、マッピング操作モードを切り替えて操作します。

詳細は、「3-2-2. マッピング操作モードの切り替え」をご覧ください。

■自動マッピング

Form ファイルで定義した変数名を XML データの要素として用意することで、全ての変数を一括で自動的にマッピングすることができます。

詳細は、「3-2-8. 自動マッピング」をご覧ください。

■ヘッダマッピング

データソースの特定の部分を特殊に扱い、出カジョブを通してその特定部分の XML データを 1 ページ目のみまたは全ページに出力する機能です。

詳細は、「3-4. ヘッダマッピング」をご覧ください。

3-2. 基本操作

XML 用 Datamap エディタの基本操作を説明します。

なお、この章の以降は「XML 用 Datamap エディタ」を「Datamap エディタ」と表記します。

基本操作では以下の内容についてそれぞれ説明します。

- ・ Datamap エディタの起動方法とエディタの構成
- ・ マッピング操作モードの切り替え
- ・ データマッピングとデータマッピングの解除
- ・ 変数の追加
- ・ 未定義変数とツリーアイテムの保存
- ・ フォームビューア
- ・ ドキュメントビューア
- ・ 自動マッピング

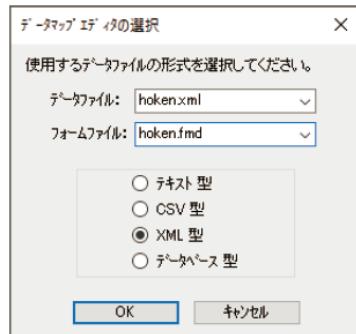
3-2-1. Datamap エディタの起動方法とエディタの構成

Datamap エディタの起動

Datamap エディタにてデータマッピング定義する前に、データファイル（XML ファイル）の作成、Job ファイルの作成、Form エディタでのレイアウト設計を行ってください。

マネージャで Job ファイルを、データファイルリストから Datamap ファイルに設定するデータファイルをそれぞれ選択してツールボタン [データマップ編集] をクリックすると [データマップエディタの選択] ダイアログが起動します。

図：データマップエディタの選択ダイアログ

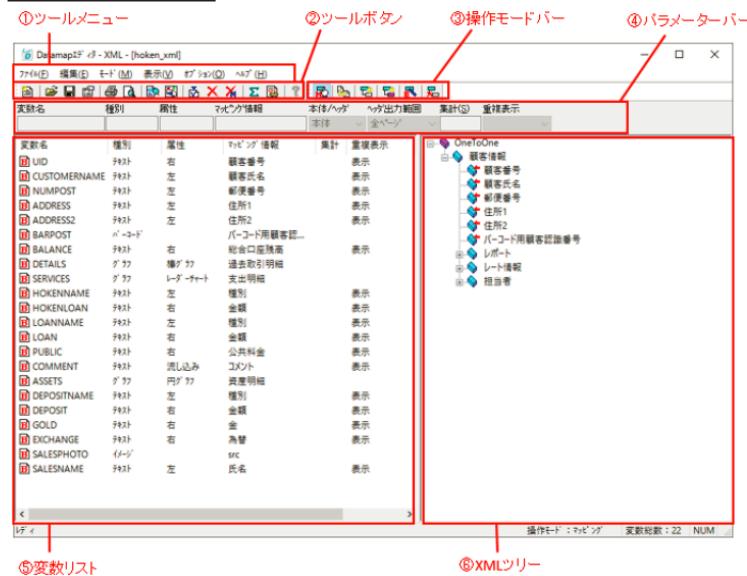


[データファイル] にデータファイルリストで選択した XML ファイル名が、[フォームファイル] にはジョブユニットリストで選択した Form ファイル (.fmd) 名が表示されることを確認してください。データファイルの形式として [XML型] を選択して [OK] ボタンをクリックすると、Datamap エディタが起動します。

Datamap エディタの画面構成

Datamap エディタを起動すると以下の画面が表示されます。それぞれの画面構成を説明します。

図：Datamap エディタ



①ツールメニュー

Datamap エディタの各種設定を行うことができます。

②ツールバー

図：ツールバー



ツールメニューで頻繁に使用される機能を使用することができます。

③操作モードバー

図：操作モードバー



XML ツリーでの操作を切り替えることができます。

④パラメータバー

図：パラメータバー



変数リストで選択されている変数のマッピング情報を表示します。

⑤変数リスト

図：変数リスト

変数名	種別	属性	マッピング情報	集計	重複表示	マッピング出力範囲
UID	テキスト	右	顧客番号		表示	
CUSTOMERNAME	テキスト	左	顧客氏名		表示	
NUMPOST	テキスト	左	郵便番号		表示	
ADDRESS	テキスト	左	住所1		表示	
ADDRESS2	テキスト	左	住所2		表示	
BARPOST	バーコード		バーコード用顧客...			
BALANCE	テキスト	右	総合口座残高		表示	
DETAILS	グラフ	棒グラフ	過去取引明細			
SERVICES	グラフ	レーダーチャート	支出明細			
HOKENNAME	テキスト	左	種別		表示	

Form エディタで定義した変数オブジェクトの変数名やマッピング情報が表示されます。

⑥ XML ツリー

図 : XML ツリー



XML データの要素がツリー表示されます。要素の表示として以下のものがあります。

ルート要素

XML データのルートとなる要素です。

※ルート要素へはデータマッピングや改ページ設定を行うことはできません。

要素

XML データの要素です。

まだマッピングや改ページ設定が行われていない状態です。

マッピング済み要素

XML データの要素です。

変数とデータマッピングが行われている状態です。

改ページ設定済み要素

XML データの要素です。

改ページ設定が行われている状態です。

マッピング、改ページ設定済み要素

XML データの要素です。

変数とデータマッピングが行われ、改ページ設定が行われている状態です。

属性

XML データの属性です。

まだマッピングが行われていない状態です。

※属性に対しては改ページ設定を行うことはできません。

マッピング済み属性

XML データの属性です。変数とデータマッピングが行われている状態です。

※属性に対しては改ページ設定を行うことはできません。

3-2-2. マッピング操作モードの切り替え

Datamax エディタでは、マッピング操作モードを切り替えることで、XML ツリーでの操作を切り替えることができます。マッピング操作モードはツールメニュー [モード] や以下の操作モードバーから切り替えることができます。

図：操作モードバー



[マッピングモード]

変数と XML データの要素をデータマッピングする際に選択するモードです。

Datamax エディタ起動時はこのモードに設定されています。

[改ページ設定モード]

選択した XML データの要素に対して改ページ設定を行うモードです。

※改ページ設定についての詳細は「3-3. XML での改ページ設定について」をご覧ください。

[要素ノードの生成モード]

選択した XML データの要素の子要素としてツリービューアイテムを追加します。

[属性ノードの生成モード]

選択した XML データの要素の属性としてツリービューアイテムを追加します。

[編集モード]

選択した XML データの要素の名前を編集します。

[削除モード]

選択した XML データの要素をツリービューから削除します。

3-2-3. データマッピングとデータマッピングの解除

変数と XML データの要素をデータマッピングする方法と、データマッピングを解除する方法を説明します。

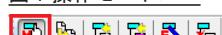
データマッピング

データマッピングを行う場合は、マッピング操作モードを“マッピングモード”に設定し、変数リストから対象の変数を選択してから XML データの要素を選択します。

◆◆ 操作 ◆◆

操作モードバーから“マッピングモード”をクリックします。

図：操作モードバー



マッピング操作モードが“マッピングモード”へ切り替わりました。

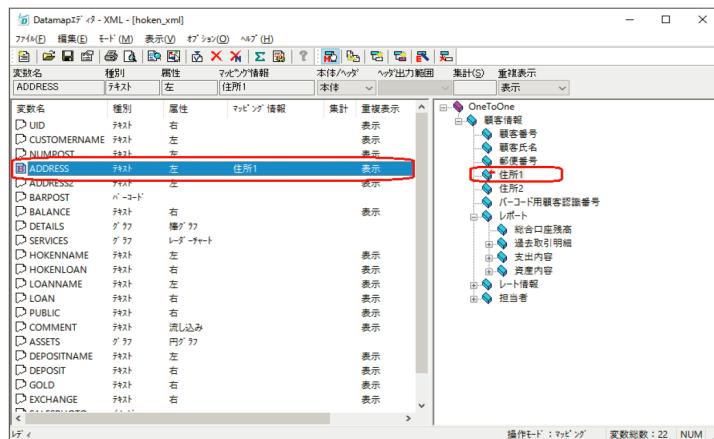
◆◆ 操作 ◆◆

変数リストから対象の変数を選択し、データマッピングを行う XML データの要素を選択します。なお、XML データの要素を選択する際にカーソルが [OK?] に変化します。データマッピングを行う場合は左クリックをしてください。なお、データマッピングの動作をキャンセルする場合は、[OK?] の際に右クリックをしてください。

変数リストの変数と XML データの要素のデータマッピングが完了すると、以下のような状態になります。これでデータマッピングの操作は完了です。

この例では、変数リストの “ADDRESS” と XML ツリーの要素 “住所1” をデータマッピングしています。

図：データマッピング



<< Tips >>

データマッピングは複数同時に実行することができます。変数リストから複数の変数を選択し、XML ツリーの要素をクリックします。選択した変数はすべて同じ XML ツリーの要素へデータマッピングすることができます。

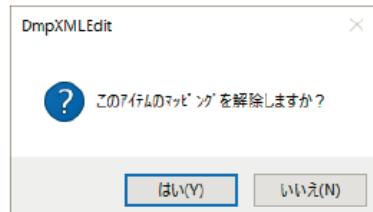
データマッピングの解除

データマッピングの解除は、変数リストから対象の変数を選択してデータマッピングの解除を行います。

◆◆ 操作 ◆◆

変数リストからデータマッピングの解除を行う変数を選択し、ツールメニュー [編集]-[マッピング解除] をクリックします。確認ダイアログが表示されるので、マッピングを解除する場合は [はい] ボタンをクリックします。

図：確認ダイアログ



<< Tips >>

データマッピングの解除は複数同時に行うことができます。変数リストから複数の変数を選択し、ツールメニュー [編集]-[マッピング解除] をクリックします。

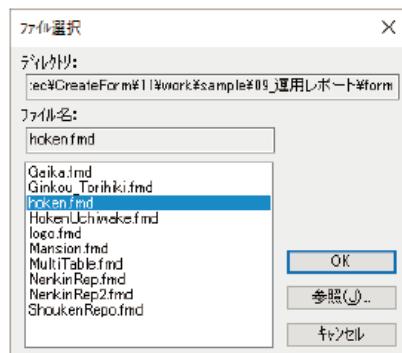
3-2-4. 変数の追加

Datamap ファイル作成後に、フォームへ変数を追加した場合は、Datamap エディタに変数を追加（インポート）する必要があります。また、セット帳票のような複数のフォームに含まれる変数のデータマッピングを行う場合もインポートを行う必要があります。

◆◆ 操作 ◆◆

ツールメニュー [編集]-[変数のインポート] をクリックし、変数のインポートを行うフォームを選択して [OK] をクリックします。

図：ファイル選択ダイアログ



フォームに含まれる変数の一覧が表示されますので、インポートを行う変数を選択します。

◆◆ 操作 ◆◆

インポートを行う変数はチェックを付けます。また、インポートを行わない変数はチェックを解除します。[OK] ボタンをクリックしてインポートを行います。

図：変数追加選択ダイアログ

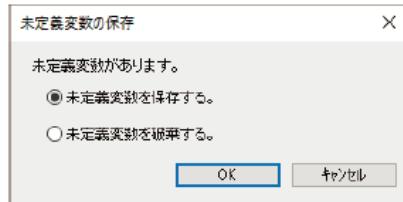


3-2-5. 未定義変数とツリーアイテムの保存

Datamap ファイルの保存時に、未定義の変数やマッピングされていないツリーアイテムが存在する場合はデータマッピング状況に応じて以下のダイアログが表示されます。

未定義の変数が存在する場合

図：未定義変数の保存



[未定義変数を保存する]

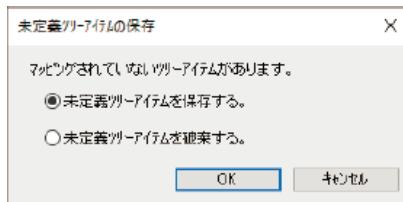
データマッピングが行われていない変数を Datamap ファイルへ保存します。

[未定義変数を破棄する]

データマッピングが行われていない変数は Datamap ファイルへ保存しません。

マッピングされていないツリーアイテムが存在する場合

図：未定義ツリーアイテムの保存



[未定義ツリーアイテムを保存する]

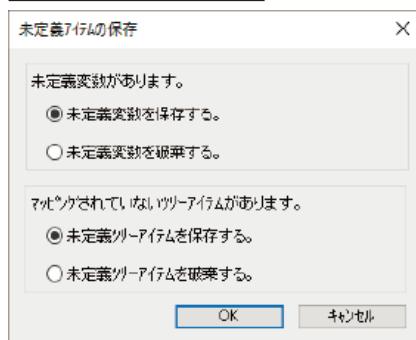
データマッピングが行われていないツリーアイテムを Datamap ファイルへ保存します。

[未定義ツリーアイテムを破棄する]

データマッピングが行われていないツリーアイテムは Datamap ファイルへ保存しません。なお、ツリーアイテムの破棄によって XML データファイルが変更されることはありません。

未定義の変数とマッピングされていないツリーアイテムが存在する場合

図：未定義アイテムの保存



[未定義変数を保存する]

データマッピングが行われていない変数を Datamap ファイルへ保存します。

[未定義変数を破棄する]

データマッピングが行われていない変数は Datamap ファイルへ保存しません。

[未定義ツリーアイテムを保存する]

データマッピングが行われていないツリーアイテムを Datamap ファイルへ保存します。

[未定義ツリーアイテムを破棄する]

データマッピングが行われていないツリーアイテムは Datamap ファイルへ保存しません。
なお、ツリーアイテムの破棄によって XML データファイルが変更されることはありません。

3-2-6. フォームビューア (FormViewer)

ツールメニュー「オプション」-[フォームビューア] をクリックすると、フォームビューアが起動します。フォームビューアには、[データマップ設定] で指定されたフォームの帳票レイアウトと変数オブジェクトの配置がプレビュー表示されます。
これらの変数オブジェクトを選択することで、変数のインポートやマッピングを確認することができます。

※フォームビューアの詳細については「5-2. フォームビューア」をご覧ください。

3-2-7. ドキュメントビューア

ツールメニュー「オプション」-[ドキュメントビューア] をクリックすると、ドキュメントビューアが起動します。ドキュメントビューアでは XML データファイル (.xml) や Datamap ファイル (.dmx) の内容を確認することができます。

図：ドキュメントビューア

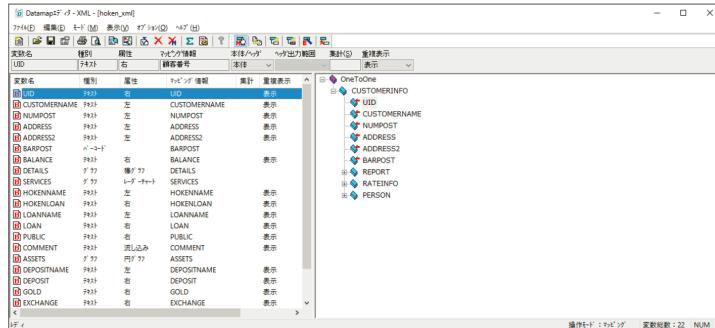
```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
- <OneToOne>
- <顧客情報>
  <顧客番号>94012345678</顧客番号>
  <顧客氏名>小森 宏二 様</顧客氏名>
  <郵便番号>1600123</郵便番号>
  <住所1>東京都新宿区新宿1-2-8</住所1>
  <住所2>110-00123</住所2>
  <バーコード用顧客認証番号>16001231-2-3111</
  バーコード用顧客認証番号>
- <ポート>
  <総合口座残高>*****</総合口座残高>
- <過去取引履歴>
  - <tr>
    <td>/</td>
    <td>9月</td>
    <td>10月</td>
    <td>11月</td>
    <td>12月</td>
    <td>1月</td>
    <td>2月</td>
    <td>3月</td>
    <td>4月</td>
```

3-2-8. 自動マッピング

変数リストの変数名と XML ツリーにある同名の要素に対して自動的にデータマッピングを行う機能です。XML データの要素名を使用してフォームへ変数を配置している場合などは、データマッピングの作業を自動で行うことができます。

自動マッピングはツールメニュー [オプション]-[自動マッピング] をクリックします。

図：自動マッピング



《注意》

同ロケーションに属する要素が複数存在する場合に自動マッピングを行った場合には、一番最初に出現した最上位の要素に対してのみ自動的にマッピングが行われます。また、データマッピングの変更やその他の設定を行う場合は、設定に応じて行う必要があります。

3-2-9. データ取得要素の指定

データ取得位置の指定を行うことで同名、同階層（以下ロケーションパス）に存在するデータの出力を制御することができます。

（注）Create! Formで使用する“ロケーションパス”とはXPathなどの規格の概念と異なります。Create! Form では要素の正確な位置を特定するものではなく、単にルート要素から対象の要素までの絶対的なパスを指します。

変数リストから設定対象の変数を選択します。この際、選択した変数はマッピング済みである必要があります。右クリックメニューの [データ取得位置] をクリックするとデータ取得位置設定ダイアログが表示されます。

図：データ取得位置設定ダイアログ



[データ取得位置指定] をチェックすることでデータ取得位置の設定が有効となります。

上記の図の例では “/root/data” のロケーションに存在する要素に対して変数 “DATA1” がマッピングされている状態です。[データ取得開始位置]、[データ取得終了位置] で設定する数値は、XML データ内における “/root/data” 要素の出現番号を表します。[データ取得開始位置] から [データ取得終了位置] までの要素のデータを変数に出力する設定となります。

通常同ロケーションに存在するデータは全て出力されてしまいますが、この設定を行うことにより変数ごとに特定のロケーションのデータを割り当てるようになります。

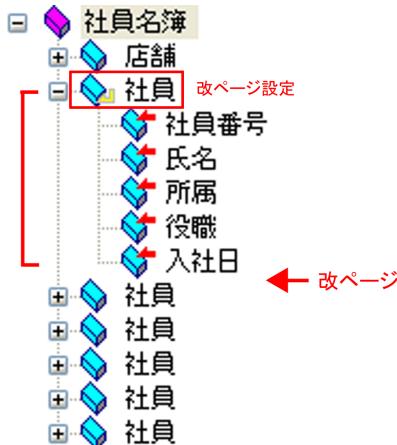
3-3. XML での改ページ設定について

複数ページの帳票出力を行う場合には、Datamap エディタ上で改ページ設定を行います。

XML での改ページ設定は、XML データの要素の終了や要素の繰り返しごとに設定します。

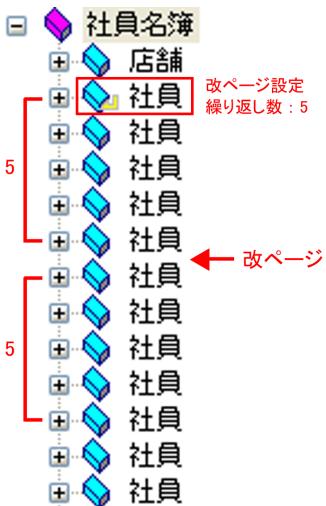
※改ページについての詳細はマネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.5 改ページとフォームの切り替え」-「改ページ」をご覧ください。

図：要素の終了



改ページ設定を要素の終了で設定した場合、この例では「社員」要素の終了後に改ページ処理が行われます。

図：要素の繰り返し



改ページ設定を要素の繰り返しで設定した場合、この例では「社員」要素を 5 回繰り返すごとに改ページ処理が行われます。

改ページ設定はツールメニュー [モード]-[改ページ設定] をクリックします。

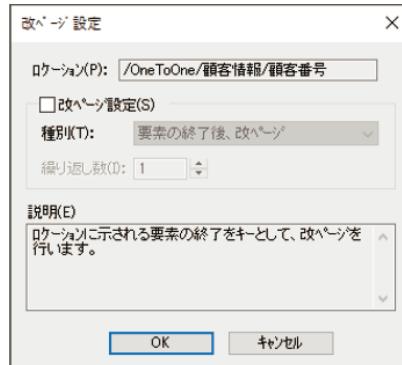
※操作モードバーの [改ページ設定モード] でも同様に設定可能です。

図：改ページ設定モード



改ページ設定モードに変更後に、XMLツリーから改ページのキーとしたい要素をクリックして改ページ設定を行います。XMLツリーの要素をクリックすると以下の改ページ設定ダイアログが表示されます。

図：改ページ設定ダイアログ



[改ページ設定]にチェックを入れ、[種別]から改ページ方法を設定します。
改ページ種別は、以下の設定項目から選択します。

[要素の終了後、改ページ]

XMLツリーの要素の終了をキーとして改ページ処理を行います。

[要素の繰り返し後、改ページ]

XMLツリーの要素が複数存在する場合に、その要素が指定回数出現した後に改ページ処理を行います。なお、指定回数は[繰り返し数]から指定します。

[要素の終了後、ユニット切り替え]

マルチフォームの帳票出力をを行う場合に使用します。

[要素の終了後、改ページ]と同様、XMLツリーの要素の終了をキーとして改ページ処理を行い、次ページの出力に使用するジョブユニットを切り替えます。

※マルチフォームについての詳細はマネージャのメニュー[ヘルプ]-[オンラインマニュアル]から「3.機能リファレンス」-「3.5 改ページとフォームの切り替え」-「マルチフォーム」をご覧ください。

[要素の繰り返し後、ユニット切り替え]

マルチフォームの帳票出力をを行う場合に使用します。

[要素の繰り返し後、改ページ]と同様、XMLツリーの要素が複数存在する場合に、その要素が指定回数出現した後に改ページ処理を行い、次ページの出力に使用するジョブユニットを切り替えます。

※マルチフォームについての詳細はマネージャのメニュー[ヘルプ]-[オンラインマニュアル]から「3. 機能リファレンス」-「3.5 改ページとフォームの切り替え」-「マルチフォーム」をご覧ください。

以上の設定を行い、[OK]ボタンをクリックすると改ページ設定が完了します。

改ページ設定を行ったXMLツリーの要素アイテムの表示が変わっていることを確認してください。

図：改ページ設定後の要素アイテム



3-4. ヘッダマッピング

1. 概要

ヘッダマッピングとは、データソースの特定の部分を特殊に扱い、出力ジョブを通してその特定部分のXMLデータを1ページ目のみまたは全ページに出力する機能です。

XMLデータマップ形式では、XMLツリーの要素に対する通常のデータマッピングを行う際に、ヘッダマッピングの設定を行うことができます。

2. ヘッダマッピングの設定

変数リストから既にデータマッピングが行われている変数を選択し、パラメータバーの[本体/ヘッダ]から[ヘッダ]を設定します。この設定によって選択されている変数がヘッダマッピングに設定されます。

3. 出力範囲の設定

ヘッダマッピングした変数を全ページに出力するか、1ページ目のみに出力するかを設定します。

変数リストから既にヘッダマッピングが行われている変数を選択し、パラメータバーの[ヘッダ出力範囲]から[全ページ]または[1ページ]を選択します。全ページを選択した場合は、全ページにデータが出力されます。また、1ページを選択した場合は、最初のページにだけデータが出力されます。

3-5. 定型 XML

1. 概要

定型 XML とは Create!Form 独自の要素で構成された XML ツリー構造です。

改ページやマルチフォームの出力を行う際には、この定型 XML ツリー構造を任意の XML データに組み込んで出力することができます。

定型 XML データ構造

```
<create_doc>
  <create_unit create_unit_no="1">
    <create_page>
      .
      .
      .
    </create_page>
  </create_unit>
</create_doc>
```

各要素と属性の意味は以下の通りです。

要素	説明
create_doc	定型ツリー構造のルート要素。 子要素に "create_unit" 要素を一つ以上持つ。
子要素	説明
create_unit	ジョブユニット出力範囲を示す要素。 <create_unit> ~ </create_unit> までを一つのジョブユニットで出力する。"create_page" 要素を一つ以上持つ。 また、ジョブユニット ID を示す "create_unit_no" 属性を持つことができる。
属性	説明
create_unit_no	ジョブユニット ID を示す属性。 "create_unit" 要素に属する。
子要素	説明
create_page	ページの出力範囲を示す要素。 <create_page> ~ </create_page> までを 1 ページ内に出力する。子要素には任意の要素構造を持つ。

定型 XML を使用した帳票資源ファイルは、" 帳票資源フォルダ ¥tut¥list_xml¥fix_data" にあります。この帳票資源ファイルに含まれている Datamap ファイルでは、改ページ設定は行われておらず、定型 XML によって改ページ処理が行われます。

帳票資源フォルダはマネージャの [ヘルプ]-[バージョン情報]-[バージョン情報詳細] で確認できます。

XML データの確認やテスト実行などを行って、動作を確認してください。

3-6. 注意事項

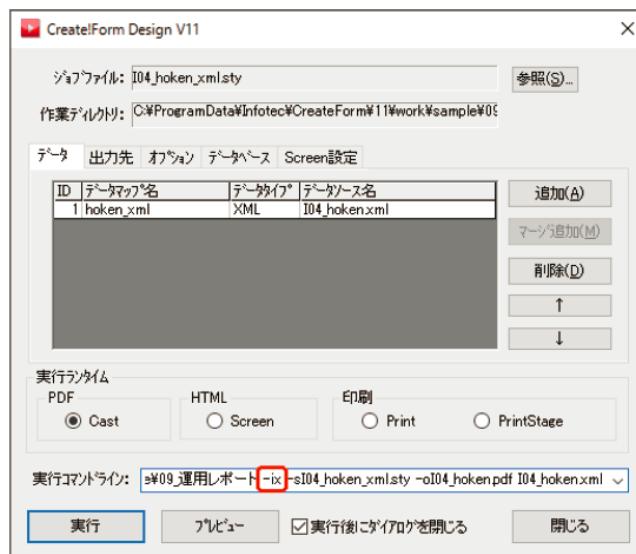
3-6-1. ランタイム実行時のオプション

XML データマップ形式を用いた出力実行の際は、必ず実行時のコマンドラインに実行オプション “-ix” を付加して実行する必要があります。

■マネージャからの実行例

マネージャからテスト実行を行う場合は、テスト実行ダイアログによって自動的に “-ix” オプションが付加されます。

図：テスト実行ダイアログ



■ API 実行時に渡す引数の例

実行コマンドライン文字列に “-ix” オプションを付加してランタイム実行してください。

-DC:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\work\sample\09_ 運用レポート -ix -sI04_hoken.xml.sty -oI04_hoken.pdf I04_hoken.xml

4. DB データマップ

4-1. 概要

Create!Form では DB データを使用したデータマッピングに対応しています。

DB データは SQL を使用してデータベースからデータ受け取るため、通常のテキストや CSV といったデータファイルとのデータマッピングとは操作が異なります。DB データを使用してデータマッピングを行う際は、DB 用 Datamap エディタを使用して行います。DB 用 Datamap エディタではフォームに含まれる変数と DB データのクエリーカラムをマッピングします。

DB データとデータマッピングをする場合の特徴は以下の通りです。

■データベース設定

DB 用 Datamap エディタでは、フォームの変数と DB データとのマッピングを行う際に、データベースを設定する必要があります。

詳細は、「4-2-2. データベース設定」をご覧ください。

■カラムの手動追加

データベースに接続できない環境において、DB データマップを行う際に使用する機能です。

詳細は、「4-2-5. カラムの手動追加」をご覧ください。

■キーブレイク

ある特定の項目のデータが変化したタイミングで、特定の動作をさせるための機能です。

詳細は、「4-5. キーブレイク」をご覧ください。

■自動マッピング

Form ファイルで定義した変数名とデータベースから取得したクエリーカラム名が同一の場合は、自動的にマッピングすることができます。

詳細は、「4-2-8. 自動マッピング」をご覧ください。

4-2. 基本操作

DB 用 Datamap エディタの基本操作を説明します。

なお、この章の以降は「DB 用 Datamap エディタ」を「Datamap エディタ」と表記します。

基本操作では以下の内容についてそれぞれ説明します。

- ・ Datamap エディタの起動方法とエディタの構成
- ・ データベース設定
- ・ データマッピングとデータマッピングの解除
- ・ マッピングされたフィールド番号をずらす
- ・ カラムの手動追加
- ・ 変数の追加と削除
- ・ フォームビューア
- ・ 自動マッピング
- ・ ファイルデータソースの使用

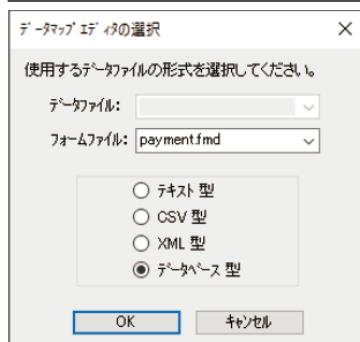
4-2-1. Datamap エディタの起動方法とエディタの構成

Datamap エディタの起動

Datamap エディタにてデータマッピング定義する前に、Job ファイルの作成、Form エディタでのレイアウト設計を行ってください。

マネージャのプレビュー表示領域から帳票を選択して、ツールボタン [データマップ編集] をクリックします。

図：データマップエディタの選択ダイアログ



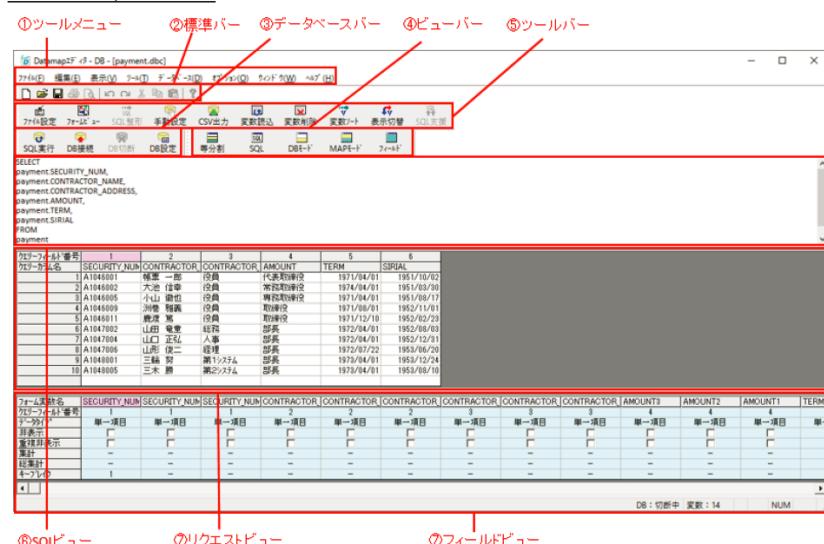
[フォームファイル] にはジョブユニットリストで選択した Form ファイル (.fmd) 名が表示されることを確認してください。データファイルの形式として [データベース型] を選択して [OK] ボタンをクリックすると、Datamap エディタが起動します。

※データファイルの指定は行えません。なお、Datamap エディタ上から SQL を直接指定することも可能です。

Datamap エディタの画面構成

Datamap エディタを起動すると以下の画面が表示されます。それぞれの画面構成を説明します。

図：Datamap エディタ



①ツールメニュー

Datamap エディタの各種設定を行うことができます。

②標準バー

図：標準バー



ツールメニューで頻繁に使用される機能を使用することができます。

③データベースバー

図：データベースバー



ツールメニューで頻繁に使用されるデータベースの機能を使用することができます。

④ビューバー

図：ビューバー



Datamap エディタのウィンドウ表示を切り替えます。

⑤ツールバー

図：ツールバー



ツールメニューで頻繁に使用される機能を使用することができます。

⑥SQL ビュー

データベースに対して SQL を実行する場合に使用します。

⑦リクエストビュー

データベースから取得したデータのクエリーカラムが表示されます。

⑧フィールドビュー

Form エディタで定義した変数オブジェクトの変数名やマッピング情報が表示されます。

4-2-2. データベース設定

Create!Form で利用できるデータベースは、ODBC 接続と Oracle 接続の 2 種類です。

ODBC 接続は Windows 環境、Oracle 接続は Windows、UNIX/Linux 環境で動作します。

Create!Form でデータベース接続を利用するには、以下の情報を用意する必要があります。

- ・データソース名
- ・ユーザ名
- ・パスワード

これらの情報は、データベースの管理者へお問合せください。

データベース設定はマネージャ上から設定し、Datamap エディタから設定したデータベース設定を使用します。マネージャ上でのデータベース設定は以下の手順で行います。

マネージャを起動しツールメニュー [設定]-[データソース] をクリックします。
 [データソース]、[ユーザ名]、[パスワード]、[DB 種別] を設定し、[登録] ボタンをクリックします。これで、マネージャ上でのデータベース設定は完了です。
 Datamap エディタでは、このデータマップ設定を使用してデータベースへの接続を行います。
 Datamap エディタでのデータベース設定は以下の手順で行います。

Datamap エディタのツールメニュー [データベース]-[データベース接続設定] をクリックしてデータベース設定ダイアログを表示します。データベース設定ダイアログの [登録データソース] から、マネージャ上で設定したデータソースを選択し、[OK] ボタンをクリックします。これで Datamap エディタでのデータベース設定は完了です。なお、Datamap エディタでのデータベース設定は、Datamap ファイルごとに設定しておく必要があります。

4-2-3. データマッピングとデータマッピングの解除

変数とデータベースから取得するデータのマッピングは、SQL で取得したデータのインデックスの参照によって行われます。Datamap エディタのフィールドビューにある「クエリーフィールド番号」項目がそのインデックスを示しています。

変数とデータベースから取得したクエリーカラムをデータマッピングする方法と、データマッピングを解除する方法を説明します。

データマッピング

データマッピングを行う場合は、初めにデータベースとの接続を行ってクエリーカラムを取得します。

※データベースへ接続を行わずにデータマッピングを行う場合は、カラムの手動追加を行う必要があります。詳しくは「4-2-5. カラムの手動追加」をご覧ください。

◆◆ 操作 ◆◆

ツールメニュー [データベース]-[データベース接続設定] をクリックして、接続するデータベースを設定し、[OK] ボタンをクリックします。次に、ツールメニュー [データベース]-[データベース接続] をクリックしてデータベースへ接続します。

※データベースへ正しく接続できない場合は、ユーザ名やパスワードが正しく設定されているかを確認してください。

データベースへ接続後、SQL ビューへ SQL 文を入力してツールメニュー [データベース]-[SQL 実行] をクリックします。データベースからデータの取得が行われると、リクエストビューへクエリーカラムが表示されます。DB データマップでは、このクエリーカラムと変数をデータマッピングします。

◆◆ 操作 ◆◆

データマッピングするクエリーカラムをドラッグして、フィールドビューにあるデータマッピング対象の変数へドロップします。

データマッピングが行われると、変数リストの色が変化します。また、フィールドビューの「クエリーフィールド番号」にデータマッピングされているクエリーフィールドの番号が表示されます。このクエリーフィールド番号は、リクエストビューのクエリーフィールド番号と一致しています。

データマッピングの解除

データマッピングの解除を行う場合は、フィールドビューの変数リストにある「クエリーフィールド番号」をクリックして、一番先頭の「設定なし」を選択します。

4-2-4. マッピングされたフィールド番号をずらす

実行するSQLの変更によってデータマッピングされていたクエリーフィールド番号にずれが生じる場合があります。例えば以下のようにSQLを変更した場合です。

SQL変更前：“select name, company from sample”

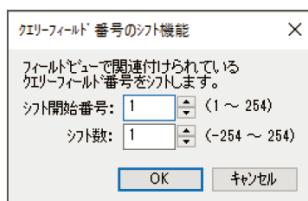
SQL変更後：“select id, name, company from sample”

このように一番先頭にデータ項目を追加した場合、それまでデータマッピングされていたデータのインデックスがすべてずれてしまいます。

このような場合は、ずれたインデックスを一括してずらすことができます。

ツールメニュー【ツール】-[クエリーフィールド番号のシフト]をクリックして、クエリーフィールド番号のシフト設定ダイアログを表示します。

図：クエリーフィールド番号のシフト設定

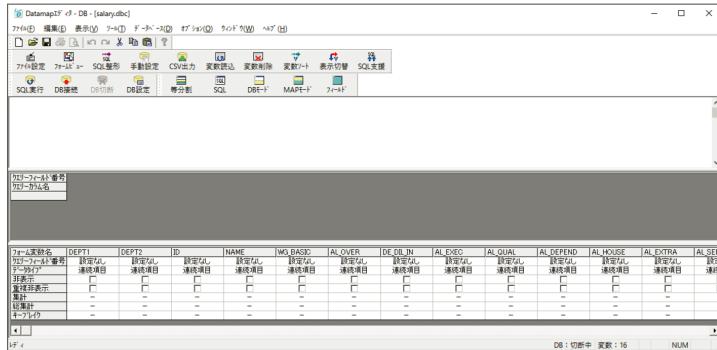


ここでシフトさせる量を指定して「OK」ボタンをクリックします。これにより指定した量だけインデックスがシフトされます。

4-2-5. カラムの手動追加

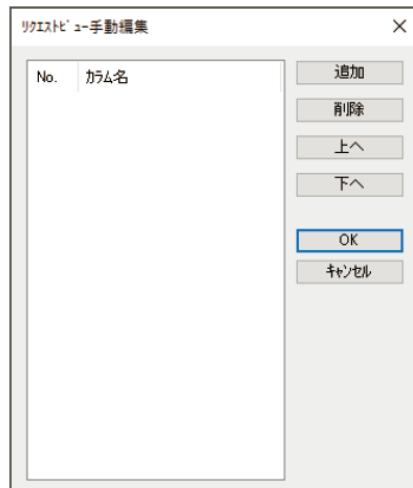
データベースに接続されていない状態では、以下のようにリクエストビューに何も表示されません。そのため、ドラッグ & ドロップによるデータマッピングを行うことができません。

図：データベースに接続していない状態



この状態でも最終的に取得するデータが予め分かっていれば、データベースに接続しなくても手動でクエリーカラムの設定を行うことができます。ツールメニュー [ツール]-[リクエストビュー手動設定] をクリックします。

図：リクエストビュー手動編集ダイアログ



リストビュー手動設定ダイアログが表示されるので、ここで [追加] ボタンをクリックします。クエリーフィールドの名前（カラム名）の入力を要求されるので名前を入力します。

図：カラムの追加ダイアログ



[OK] ボタンをクリックするとクエリーフィールドがリストに追加されます。

図：追加されたクエリーフィールド



この作業を繰り返して必要なクエリーフィールドを全て追加登録します。[OK] ボタンをクリックすると設定したクエリーフィールドがリクエストビューに登録されます。この状態であればドラッグ & ドロップによるデータマッピングが可能になります。

4-2-6. 変数の追加と削除

Datamap ファイル作成後に、フォームへ変数を追加した場合は、Datamap エディタに変数を追加（インポート）する必要があります。また、セット帳票のような複数のフォームに含まれる変数のデータマッピングを行う場合もインポートを行う必要があります。

◆◆ 操作 ◆◆

ツールメニュー [ツール]-[変数の再読み込み] をクリックし、追加する変数にチェックを付け、[OK] をクリックします。

図：変数の追加ダイアログ



フィールドビューの変数リストが更新されます。

変数を追加（インポート）した後、フィールドビューの変数リストから変数を削除したい場合は、以下の操作を行ってください。

◆◆ 操作 ◆◆

ツールメニュー [ツール]-[変数の削除] をクリックし、削除する変数にチェックを付け、[OK] をクリックします。

図：変数の削除ダイアログ



変数削除の確認ダイアログが表示され、[はい] をクリックすると、フィールドビューの変数リストが更新されます。

4-2-7. フォームビューア (FormViewer)

ツールメニュー [ツール]-[フォームビューア] をクリックすると、フォームビューアが起動します。フォームビューアには、[データマップ設定] で指定されたフォームの帳票レイアウトと変数オブジェクトの配置がプレビュー表示されます。

これらの変数オブジェクトを選択することで、変数のインポートやマッピングを確認することができます。

※フォームビューアの詳細については「5-2. フォームビューア」をご覧ください。

4-2-8. 自動マッピング

変数とデータベースとのデータマッピングの作業は、基本的にはマウスでのドラッグ & ドロップ、もしくはインデックスによる指定で行います。なお、Form ファイルに定義した変数名とデータベースから取得するクエリーカラム名が同じであれば自動マッピング機能を使用して、自動的にデータマッピングをさせることができます。

自動マッピング機能はツールメニュー [オプション]-[自動マッピング] をクリックします。

図：自動マッピングの対象となる変数

4-2-9. ファイルデータソースの使用

ODBC 接続では、以下の 3 種類のデータソース名が使用できます。

1. システムデータソース
2. ユーザーデータソース
3. ファイルデータソース
(表オブジェクトを含んだ帳票ではファイルデータソースは利用できません。)

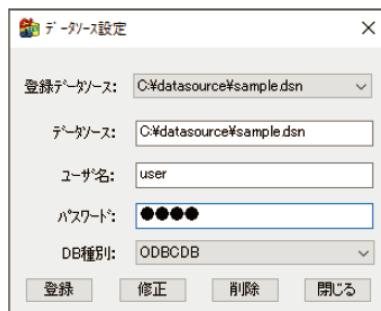
この中でファイルデータソースを使用する場合は、データソース名の指定だけでなく以下の設定が必要となります。

1. データソースファイル名をフルパスで指定
2. データマップ設定からファイルデータソースを指定

以下にファイルデータソースを使用する手順を説明します。

1. データソース設定ダイアログにてデータソースファイル名をフルパスで指定します。
マネージャを起動しツールメニュー [設定]-[データソース] をクリックします。
データソースヘデータソースファイル名をフルパスで指定します。

図：データソース設定



2. データマップ設定からファイルデータソースを指定します。

Datamap エディタのツールメニュー [データベース]-[データベース接続設定] をクリックしてデータベース設定ダイアログを表示します。データベース設定ダイアログの [登録データソース] から、マネージャ上で設定したデータソースを選択し、[ファイルデータソースを使う] にチェックを入れて [OK] ボタンをクリックします。

図：データベース設定



4-3. 重複非表示

1. 概要

« 注意 »

この Datamap エディタによる重複非表示の出力機能は、Create!Form V8 以前の製品をお使いの方のための移行用機能です。新たに設定を行う場合は、Form エディタから表オブジェクトをご使用ください。

重複非表示とは以下の図のように同一のデータが連続して出力されるような場合に、最初のデータのみを出力し、残りのデータを非表示にする機能です。

図：通常の出力

店名	仕入先名	仕入金額
フレンドストアー本店	埼玉食品(株)	53,804
フレンドストアー本店	埼玉食品(株)	77,950
フレンドストアー本店	(株)岡田屋	44,048
フレンドストアー本店	(株)岡田屋	77,337
フレンドストアー本店	(株)岡田屋	29,174
フレンドストアー立川店	埼玉食品(株)	53,647
フレンドストアー立川店	埼玉食品(株)	53,260
フレンドストアー立川店	(株)岡田屋	61,039

「フレンドストア一本店」や「フレンドストアー立川店」などが同一データで連続して出力されています。重複非表示による出力を行うと以下のような出力となります。

図：重複非表示による出力

店名	仕入先名	仕入金額
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)	53,804
		77,950
	(株)岡田屋	44,048
		77,337
		29,174
フレンドストアー立川店	埼玉食品(株)	53,647
		53,260
	(株)岡田屋	61,039

このように、同一データで連続して出力されているデータが非表示となります。

2. 重複非表示の設定方法

重複非表示機能を使用するには以下の設定を行います。

Datamap エディタのフィールドビューの変数リストから、重複非表示を適用する項目の「重複非表示」にチェックを入れます。

図：重複非表示

フォーム変数名	DEPT1	DEPT2	ID
グリーフィールド番号	1	2	3
データタイプ	単一項目	単一項目	単一項目
非表示	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
重複非表示	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
集計	-	-	-
総集計	-	-	-
キーブレイク	-	-	-

3. 補足事項

キーブレイク設定と重複非表示が同時に使用されている場合は、キーブレイクの発生ごとに重複非表示されていた項目が再び表示されます。

※キーブレイクについての詳細は「4-5. キーブレイク」をご覧ください。

例を用いて説明します。

図：通常の出力

店名	仕入先名
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)
フレンドストア一本店	(株)岡田屋
フレンドストア一本店	(株)デリセゾン

「店名」と「仕入先名」に重複非表示とキーブレイク設定を行い、キーブレイクの優先度は「店名」、「仕入先名」の順に設定されています。

この設定を使用した場合は、以下のような出力となります。

図：キーブレイクと重複非表示による出力

店名	仕入先名
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)
	(株)岡田屋
フレンドストア一本店	(株)岡田屋
	(株)デリセゾン

「店名」が「フレンドストア一本店」から「フレンドストア一本店」に変わってキーブレイクが発生した場合、「仕入先名」の「(株)岡田屋」が「フレンドストア一本店」の最初の出力で再び出力されます。

このように、重複非表示に設定されている場合もキーブレイクによって再び出力される場合があります。

4-4. 集計

4-4-1. 概要

« 注意 »

この Datamap エディタによる集計の出力機能は、Create!Form V8 以前の製品をお使いの方のための移行用機能です。新たに設定を行う場合は、Form エディタから表オブジェクトをご使用ください。

Datamap エディタの集計機能を使うことで、データをある特定のタイミングで集計し、集計データを出力することができます。集計方法としては以下の集計値の出力が行えます。

- ・合計値
- ・平均値
- ・項目数

4-4-2. 集計値の出力

集計値の出力について例を用いて説明します。

図：集計値の出力

仕入先名	商品名	仕入金額
埼玉食品株	生鮮食品	53,804
	果実	77,950
	パン	29,843
	デザート	49,399
	乳製品	92,267
仕入先 計		303,263

例えば、上記のような集計値の出力を行う場合は、集計値設定を行うことで出力することができます。なお、集計のタイミングとしては、キーブレイクが発生した時となります。

※キーブレイクについての詳細は「4-5. キーブレイク」をご覧ください。

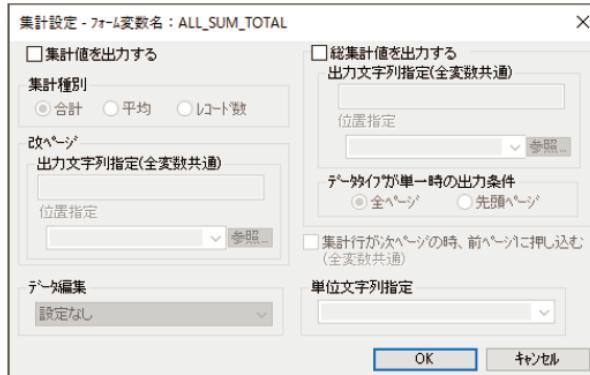
Datamap エディタから以下の集計値設定を行います。

図：集計項目

フォーム変数名	TAX_FRAME
ケーリーフォルト番号	14
データ行	単一項目
非表示	<input type="checkbox"/>
重複非表示	<input type="checkbox"/>
集計	-
総集計	-
キーブレイク	-

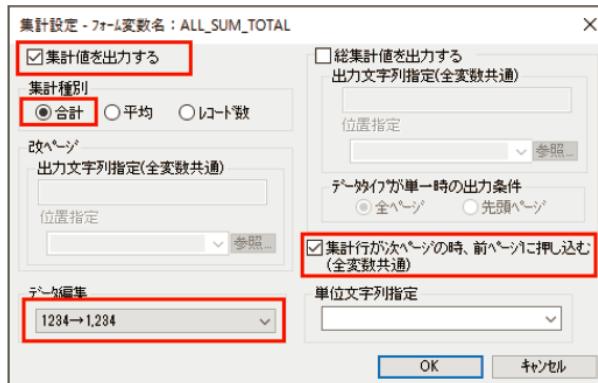
Datamap エディタのフィールドビューの変数リストから集計を行う「集計」項目をクリックすると、集計設定ダイアログが表示されます。

図：集計設定ダイアログ



ここで左上の「集計値を出力する」にチェックを入れると集計機能が有効になります。
「集計種別」を集計値の種類に応じて設定します。

図：集計設定ダイアログ



集計種別（合計）の集計行が挿入されて出力されます。

図：出力結果

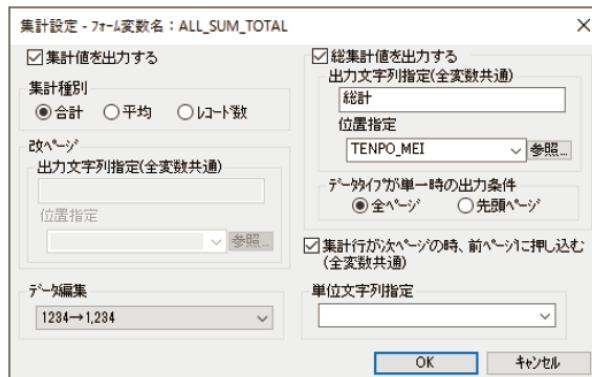
仕入先コード	仕入先名	商品コード	商品名	今月仕入金額
120	埼玉食品(株)	400	生鮮食品	53,804
		410	果実	77,950
		420	パン	29,843
		430	デザート	49,399
		440	乳製品	92,267
121	仕入先計	400	生鮮食品	303,263

4-4-3. 総集計値の出力

総集計機能では、通常の項目ごとやページごとの集計とは別に、総集計値を一番最後に出力することができます。集計値と総集計値はそれぞれ個別に設定することができます。総集計値を出力する際は、以下の操作を行います。

Datamap エディタのフィールドビューの変数リストから集計を行う「集計」項目をクリックし、集計設定ダイアログを表示します。

図：集計設定ダイアログ



右上の「総集計値を出力する」にチェックを入れます。
この設定によって総集計値の出力が行われます。

図：出力結果

店舗.計	仕入先 計	420 430 440	パン デザート 乳製品	31.600 85.410 25.077 325.480 1.469.780	66.562 30.779 45.363 319.357 1.555.478	-34.962 54.631 -70.736 163 -85.688
総計				7.049.373	-828.721	

全データ行の最後に総集計行が挿入されます。

4-4-4. 集計データの編集

集計機能で出力される集計データを以下のような機能で編集して出力することができます。

1. 単位文字列
2. データ編集

以下にそれぞれの機能について説明します。

1. 単位文字列

単位文字列は出力するデータの末尾に任意の文字列を付加する機能です。
例えば、「120 円」「80%」のようなデータを出力する場合に、この単位文字列機能を使用します。
単位文字列の設定は集計設定ダイアログから行います。
Datamap エディタのフィールドビューの変数リストから「集計」項目をクリックし、集計設定ダイアログを表示します。

図：単位文字列設定



「単位文字列指定」のリストボックスからデータに合わせて選択するか、直接単位文字列の入力を行ってください。

図：出力結果

ド	仕入先名	商品コード	商品名	今月仕入金額
埼玉食品(株)	400	生鮮食品		22182
	410	果実		69400
	420	パン		20091
	430	デザート		75628
	440	乳製品		85211
仕入先 計 (株)岡田里	400	生鮮食品		302512円
	410	果実		69018
	420	パン		20865
	430	デザート		72751

単位文字列指定によって、集計行に「円」という単位文字列が付加されました。
なお、単位文字列の設定は集計データと総集計データの共通の設定となります。

2. データ編集

変数に対して予め用意されたパターンのデータ編集を指定することができます。

データ編集の指定は、金額・日付・曜日・時刻・などの標準パターンとフリーフォーマットでの指定が行えます。（例えば数値データに対して [3桁カンマと￥記号を付加] を指定して金額データとして印刷するなど。）

なお、データ編集は集計データと総集計データの共通の設定となります。

※データ編集についての詳細はマネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.4 集計値の表示とデータ編集」-「データ編集」をご覧ください。

4-4-5. 集計行への文字列の出力

集計機能により集計値を出力する行に「仕入先 計」などの任意の文字列を出力することができます。集計行への文字列の出力を行う場合は、以下の操作を行います。なお、集計を行うタイミングによって、設定する項目が次のように変化します。

1. キーブレイクごとに集計を行う場合

※キーブレイクごとに集計を行う場合は「4-5. キーブレイク」をご覧ください。

2. 総集計の場合

Datamap エディタのフィールドビューの変数リストから「集計」項目をクリックし、集計設定ダイアログを表示します。右上の「総集計値を出力する」にチェックを付けると「出力文字列指定」と「位置指定」の設定が有効になります。総集計に関する文字列の出力はここで設定します。

図：総集計設定



「出力文字列指定」へ集計行へ出力する文字列を入力します。「位置指定」へは文字列を出力するフィールド名を指定します。

ここで指定する「位置指定」は指定するフィールド名によって以下のような出力結果となります。

図：通常の出力

TENPO_CODE	TENPO_MEI	THIS_SHIIRE_GAKU
10	フレンドストア一本店	53,804
		77,950

図：出力文字列指定と位置指定による出力（位置指定：TENPO_CODE の場合）

TENPO_CODE	TENPO_MEI	THIS_SHIIRE_GAKU
10	フレンドストア一本店	53,804
		77,950
	...	
店舗 計		1,710,377

図：出力文字列指定と位置指定による出力（位置指定：TENPO_MEI の場合）

TENPO_CODE	TENPO_MEI	THIS_SHIIRE_GAKU
10	フレンドストア一本店	53,804
		77,950
	...	
店舗 計		1,710,377

以上のように、出力位置の指定によって出力文字列の出力位置が変化します。

4-5. キーブレイク

4-5-1. 概要

« 注意 »

この Datamap エディタによるキーブレイクの出力機能は、Create!Form V8 以前の製品をお使いの方のための移行用機能です。新たに設定を行う場合は、Form エディタから表オブジェクトをご使用ください。

キーブレイク機能とは、ある特定の項目の値が変化したタイミングで、特定の動作をさせるための機能です。具体的には、次のようにになります。

仕入先名	商品名	仕入金額
埼玉食品(株)	生鮮食品	53,804
	果実	77,950
	パン	29,843
	デザート	49,399
	乳製品	92,267
(株)岡田屋	生鮮食品	44,048
	果実	77,337
	パン	29,174
	デザート	49,639
	乳製品	36,539

このとき、「仕入先名」をキーとして見た場合、「埼玉食品（株）」から「（株）岡田屋」に変わるところでキーブレイクが発生します。

仕入先名	商品名	仕入金額
埼玉食品(株)	生鮮食品	53,804
	果実	77,950
	パン	29,843
	デザート	49,399
	乳製品	92,267

----- キーブレイク発生 -----

(株)岡田屋	生鮮食品	44,048
	果実	77,337
	パン	29,174
	デザート	49,639
	乳製品	36,539

キーブレイク機能では、このようなタイミングで以下のようないくつかの処理を行うことが可能です。

1. 集計 - データを集計し出力
2. 改行 - 空行を挿入
3. 改ページ - 改ページ処理を行う
4. 罫線 - 罫線を引く

これらの処理は、複数組み合わせて指定することができます。

仕入先名	商品名	仕入金額
埼玉食品㈱	生鮮食品	53,804
	果実	77,950
	パン	29,843
	デザート	49,399
	乳製品	92,267
		303,263
(株)岡田屋	生鮮食品	44,048
	果実	77,337
	パン	29,174
	デザート	49,639
	乳製品	36,539
		236,737

上記の例では、次の組み合わせでキーブレイク出力を行っています。

1. 改行
2. 集計
3. 改行

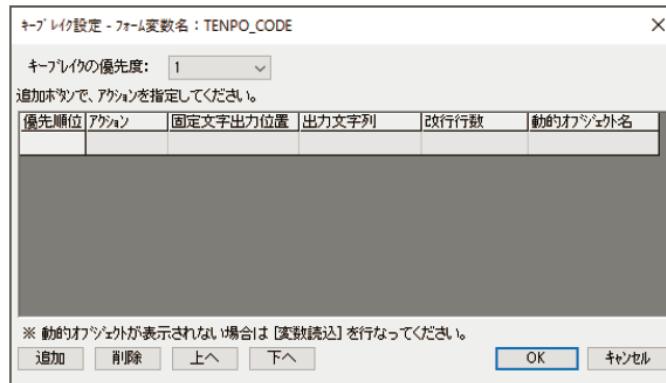
キーブレイクの設定を行うためには、Datamap エディタで以下の設定を行います。

図：キーブレイク

フォーム変数名	TENPO_MEI	TENPO_CODE
「クリーフィールド」番号	設定なし	設定なし
「キー」	連続項目	連続項目
非表示	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
重複非表示	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
集計	-	-
総集計	-	-
キーブレイク	-	-

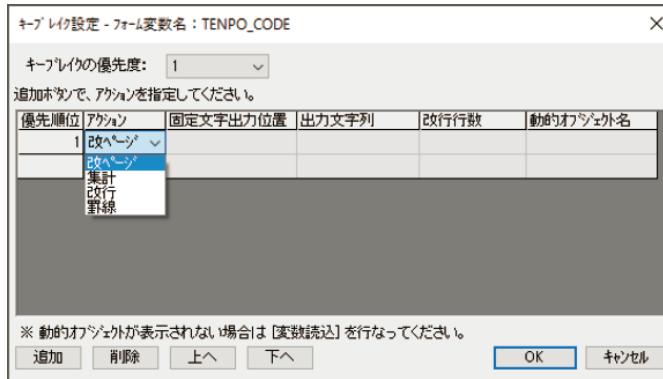
キーブレイクのキーとして指定したい項目の「キーブレイク」項目をクリックします。

図：キーブレイク設定ダイアログ



このリストがキーブレイク発生時の動作（アクション）のリストとなります。[追加] ボタンをクリックすると新しいキーブレイクアクションが登録されます。[アクション] 選択項目からアクションを選択します。

図：キーブレイクアクションの選択



[OK] ボタンをクリックするとキーブレイク登録が完了します。

キーブレイクが複数のフィールドに対して設定されている場合、次のような動作をします。

店名	仕入先名	商品名	仕入金額
フレンドストア一本店	埼玉食品㈱	生鮮食品	53,804
		果実	77,950
		パン	29,843
		デザート	49,399
		乳製品	92,287
株岡田屋		生鮮食品	44,048
		果実	77,337
		パン	29,174
		デザート	49,639
		乳製品	36,539
フレンドストア一本立川店	埼玉食品㈱	生鮮食品	53,847
		果実	53,280
		パン	80,801
		デザート	69,513
		乳製品	31,050
株岡田屋		生鮮食品	61,039
		果実	37,795
		パン	17,478
		デザート	17,151
		乳製品	36,034

ここで「店名」と「仕入先名」の2つに以下のようなキーブレイク設定がされているとします。

「店名」 - キーの優先度 : 1

1. 改行
2. 集計
3. 改行

「仕入先名」 - キーの優先度 : 2

1. 集計

出力結果は次のようになります。

店名	仕入先名	商品名	仕入金額
フレンドストアー本店	埼玉食品(株)	生鮮食品	53,804
		果実	77,950
		パン	29,843
		デザート	49,399
		乳製品	92,267
			308,263
	(株)岡田屋	生鮮食品	44,048
		果実	77,337
		パン	29,174
		デザート	49,639
		乳製品	36,539
			236,737
			540,000
フレンドストアー立川店	埼玉食品(株)	生鮮食品	53,647
		果実	53,260
		パン	80,801
		デザート	69,513
		乳製品	31,050
			288,271
	(株)岡田屋	生鮮食品	61,039
		果実	37,795
		パン	17,478
		デザート	17,151
		乳製品	38,034
			169,497
			457,768

キーブレイク設定が可能なフィールド数は 10 までとなっています。各キーの間には優先順位が存在しており、優先順位が 上位のキーブレイクが発生すると、優先順位が 下位のキーブレイクも自動的に発生します。上記の例で言えば、「店名」でキーブレイクが発生すると、「仕入先名」のキーブレイクも実行されます。

キーブレイク機能に関する概要説明は以上になります。

4-5-2. キーブレイクによる集計を行う

キーブレイク機能によってデータを集計し出力するための設定について説明します。

キーブレイクのアクションとして集計を設定するためには以下の設定を行う必要があります。

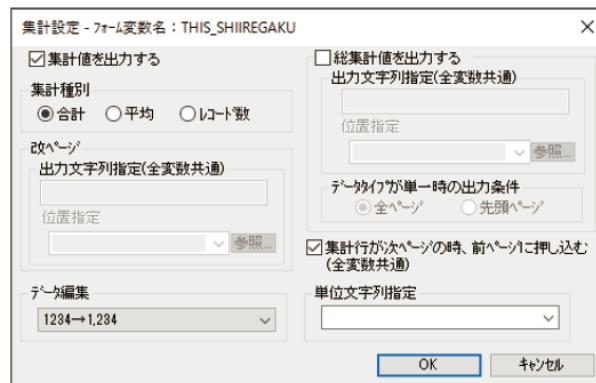
1. 集計対象となるフィールドの設定
2. キーブレイクの設定

これらの設定を Datamap エディタから以下のように行います。

1. 集計対象となるフィールドの設定

集計対象となるフィールドの「集計」項目をクリックして集計設定ダイアログを表示させ、集計の設定を行います。

図：集計設定ダイアログ



[OK] ボタンをクリックして集計設定ダイアログを閉じます。

2. キーブレイクの設定

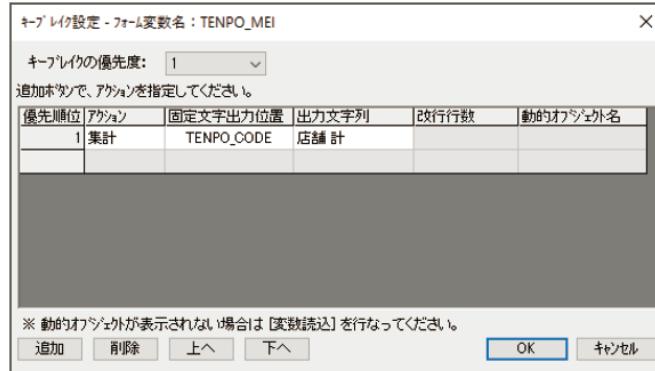
キーブレイクのキーとなるフィールドの「キーブレイク」項目をクリックしてキーブレイク設定ダイアログを表示させ、キーブレイクの設定を行います。ここで、集計を行うためには、「アクション」で「集計」を選択します。

図：キーブレイク設定



集計行に出力する文字列の設定もここで行います。集計行に出力する文字列に関しては「4-4-5. 集計行への文字列の出力」をご覧ください。

図：集計行の文字列設定



[OK] ボタンをクリックしてキーブレイク設定ダイアログを閉じます。
必要な設定は以上です。

図：出力結果

03-10 月度							日付	2003-10-01 00:00:00		
店コード	店名	仕入先コード	仕入先名	商品コード	商品名	今月仕入金額	前年仕入金額	前年差		
10	フレンドストアー 本店	120	埼玉食品(株)	400	生鮮食品	53,804	35,460	18,344		
				410	菓美	77,030	67,119	10,911		
				420	パン	29,843	12,234	17,609		
				430	デザート	49,399	93,431	-44,032		
				440	乳製品	92,267	93,173	-906		
	(株)岡田屋			400	生鮮食品	44,048	26,463	17,585		
				410	菓美	77,377	48,209	33,168		
				420	パン	29,174	93,216	-64,042		
				430	デザート	49,639	70,705	-21,066		
				440	乳製品	36,539	47,635	-11,096		
141	(株)デリセゾン	121	(株)岡田屋	400	生鮮食品	56,938	45,732	11,511		
				410	菓美	90,713	97,713	-7,500		
				420	パン	82,482	66,800	15,682		
				430	デザート	92,051	89,272	2,779		
				440	乳製品	28,317	16,403	11,914		
	223			400	生鮮食品	62,950	15,008	47,942		
				410	菓美	45,459	70,514	-25,055		
				420	パン	59,109	65,434	-6,325		
				430	デザート	47,489	42,533	4,956		
				440	乳製品	68,971	68,416	555		
20	(株)神立川	300	(株)神立川	400	生鮮食品	34,948	58,637	-23,693		
				410	菓美	14,198	98,214	-83,556		
				420	パン	32,210	46,220	-14,010		
				430	デザート	56,086	56,982	-896		
				440	乳製品	56,828	67,654	-10,826		
	(株)乃屋			400	生鮮食品	43,000	60,111	-17,111		
				410	菓美	60,012	97,244	-37,232		
				420	パン	76,187	48,044	28,143		
				430	デザート	40,909	62,696	-21,787		
				440	乳製品	86,393	78,077	8,316		
店舗 計	フレンドストアー 立川店	120	埼玉食品(株)	400	生鮮食品	1,710,377	1,838,466	-128,511		
				410	菓美	53,457	46,848	6,609		
				...	53,260	70,038	-16,778			

4-5-3. キーブレイクによる集計行をページ内に収める

キーブレイクによって集計値を出力する場合、行数の関係で集計行だけが次のページに出力されてしまうことがあります。

仕入先名	商品名	仕入金額
埼玉食品(株)	生鮮食品	53,804
	果実	77,950
	パン	29,843
	デザート	49,399
	乳製品	92,267
仕入先 計		303,263
(株)岡田屋	生鮮食品	44,048
	果実	77,337
	パン	29,174
	デザート	49,639
	乳製品	36,539

----- 改ページ -----

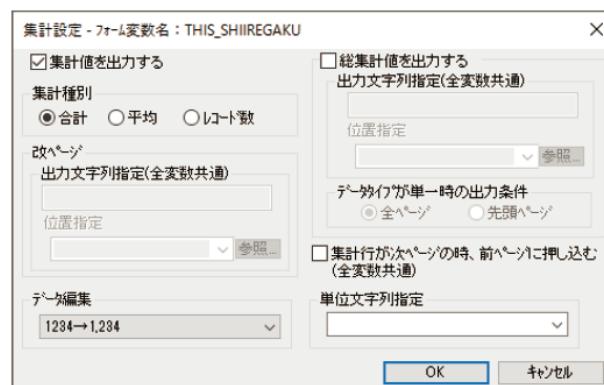
仕入先名	商品名	仕入金額
仕入先 計		236,737

このような場合に集計行だけページ内に収めることができます。

この機能を使用するためには、Datamap エディタで以下の設定を行います。

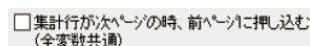
集計設定がされているいずれかのフィールドの「集計」項目をクリックして集計設定ダイアログを表示します。

図：集計設定



[集計行が次ページの時、前ページに押し込む] ヘ チェックを入れます。

図：集計行が次ページのとき、前ページに押し込む



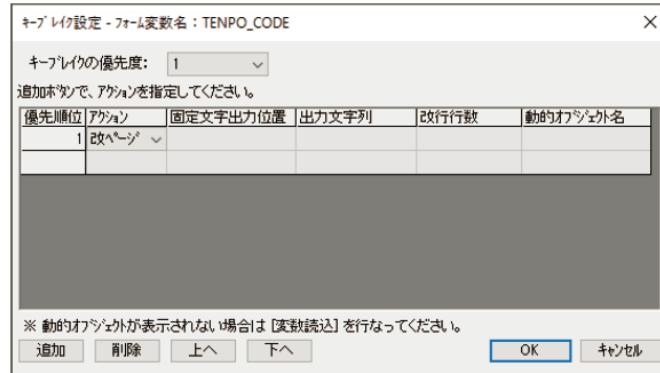
必要な設定は以上です。

4-5-4. キーブレイクによる改ページを行う

キーブレイク機能によって改ページを行うための設定について説明します。

キーブレイクによる改ページ処理を行うためには Datamap エディタで以下の設定を行う必要があります。キーブレイクのキーとなるフィールドの「キーブレイク」項目をクリックしてキーブレイク設定ダイアログを表示し、キーブレイクの設定を行います。ここで、改ページを指定するためには「アクション」で「改ページ」を選択します。

図：キーブレイクで改ページアクションを設定



[OK] ボタンをクリックしてキーブレイク設定ダイアログを閉じます。

必要な設定は以上です。

図：出力結果

03-10 月度							日付	2003-10-01 00:00:00		
店コード	店名	仕入先コード	仕入先名	商品コード	商品名	今月仕入金額	前年仕入金額	前年差		
10	フレンドストアー 本店	120	埼玉食品(株)	400	生鮮食品	53,804	35,460	18,344		
				410	果実	77,950	67,119	10,831		
				420	パン	29,843	12,224	17,619		
				430	デザート	49,399	93,431	-44,032		
				440	乳製品	92,267	93,173	-906		
	(株)岡田屋			400	生鮮食品	44,048	26,463	17,585		
				410	果実	77,337	43,608	33,729		
				420	パン	29,174	92,116	-64,942		
				430	デザート	49,639	70,705	-21,066		
				440	乳製品	36,539	47,635	-11,096		
223	(株)デリセゾン	141	(株)デリセゾン	400	生鮮食品	57,263	45,752	11,511		
				410	果実	95,988	90,713	5,275		
				420	パン	32,462	66,599	-34,137		
				430	デザート	92,051	89,272	2,779		
				440	乳製品	28,317	16,403	11,914		
	POP食品(株)			400	生鮮食品	62,950	15,008	47,942		
				410	果実	45,139	78,654	-33,515		
				420	パン	59,109	62,244	-3,135		
				430	デザート	47,489	42,533	4,956		
				440	乳製品	68,971	68,416	555		
310	(株)神立川	300	(株)神立川	400	生鮮食品	34,944	58,637	-23,693		
				410	果実	14,019	99,311	-85,295		
				420	パン	22,210	48,220	-26,010		
				430	デザート	56,086	56,982	-896		
				440	乳製品	56,828	67,654	-10,826		
	(株)乃屋			400	生鮮食品	43,000	60,111	-17,111		
				410	果実	90,042	97,064	-7,022		
				420	パン	76,187	48,044	28,143		
				430	デザート	40,909	62,696	-21,787		
				440	乳製品	86,393	78,077	8,316		

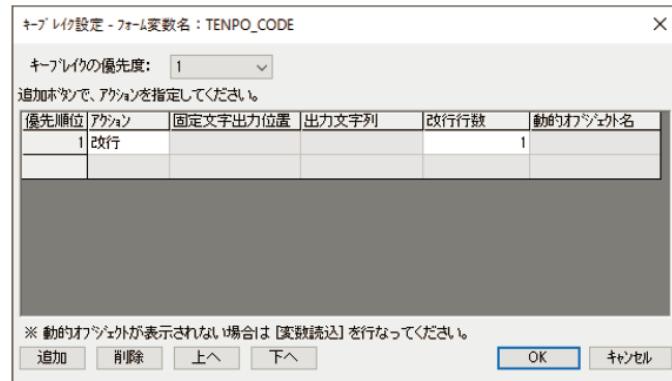
4-5-5. キーブレイクによる改行を行う

キーブレイク機能によって改行を行うための設定について説明します。

キーブレイクによる改行処理を行うためには Datamap エディタで以下の設定を行う必要があります。キーブレイクのキーとなるフィールドの「キーブレイク」項目をクリックしてキーブレイク設定ダイアログを表示し、キーブレイクの設定を行います。ここで、改行を指定するためには、「アクション」で「改行」を選択します。必要であれば、改行する行数を「改行行数」項目に入力します。

※改行が次ページにかかる場合、次ページの改行は削除されます。

図：キーブレイクで改行アクションを設定



[OK] ボタンをクリックしてキーブレイク設定ダイアログを閉じます。

必要な設定は以上です。

図：出力結果

店コード	店名	仕入先コード	仕入先名	商品コード	商品名	今月仕入金額	前年仕入金額	前年差
20	(株) デリセゾン	141	(株) デリセゾン	410	果実	34,078	34,923	-845
				420	パン	26,931	91,910	-64,979
				430	デザート	94,905	30,483	64,422
				440	乳製品	96,203	12,851	83,352
				400	生鮮食品	36,325	66,384	-30,059
		223	POP食品(株)	410	果実	24,342	69,525	-45,183
				420	パン	64,191	96,133	-31,942
				430	デザート	13,922	30,938	-17,016
				440	乳製品	44,912	77,035	-32,123
				400	生鮮食品	98,396	61,968	36,418
30	(株) 神立川	300	(株) 神立川	410	果実	65,555	32,745	32,810
				420	パン	64,461	91,006	-26,545
				430	デザート	94,399	89,009	5,390
				440	乳製品	50,092	50,531	-439
				400	生鮮食品	53,030	22,412	30,618
		310	(株) 乃屋	410	果実	33,992	24,240	9,752
				420	パン	10,010	28,633	-18,623
				430	デザート	10,704	43,106	-32,402
				440	乳製品	22,697	39,461	-16,764
				400	生鮮食品	84,373	97,981	-13,608
30	(株) 埼玉食品	120	(株) 埼玉食品	410	果実	80,687	70,082	10,605
				420	パン	82,076	99,946	-17,870

4-5-6. キーブレイクによる罫線描画を行う

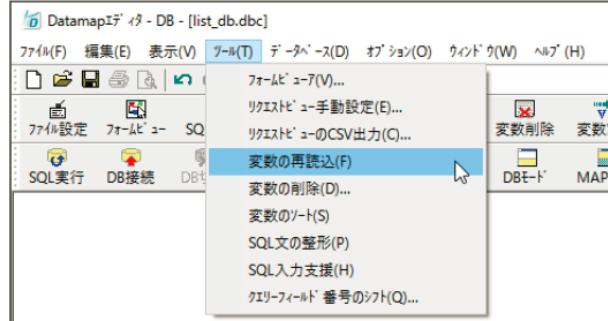
キーブレイク機能によって罫線を描画するための設定について説明します。

キーブレイクによる罫線描画を行うためには以下の作業を行う必要があります。

1. Form エディタで罫線オブジェクトを定義する
2. Datamap エディタで罫線描画のタイミングを設定する

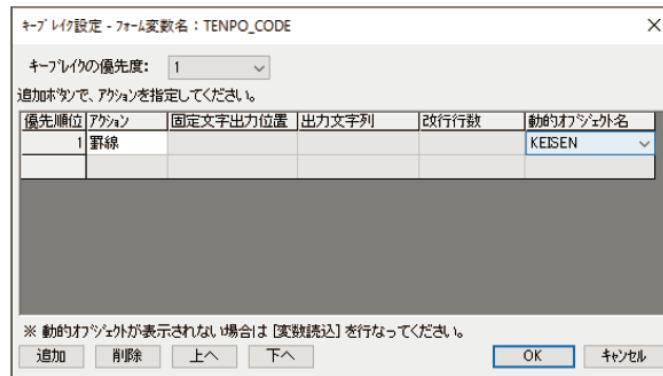
1. Form エディタで直線オブジェクトを定義し、動的オブジェクトとして動的オブジェクト名「KEISEN」で保存します。
※動的オブジェクトについての詳細はマネージャのメニュー【ヘルプ】-[オンラインマニュアル]から「3. 機能リファレンス」-「3.3 フォームオブジェクト」-「動的オブジェクト」をご覧ください。
2. Datamap エディタで、作成した動的オブジェクトを呼び出す設定を行います。
ツールメニュー【ツール】-[変数の再読み込み]を実行して、作成した動的オブジェクトを読み込みます。
※変数の再読み込みについての詳細は「4-2-6. 変数の追加と削除」をご覧ください。

図：変数の再読み込み



キーブレイクのキーとなるフィールドの「キーブレイク」項目をクリックしてキーブレイク設定ダイアログを表示し、キーブレイクの設定を行います。ここで、罫線描画を指定するためには、「アクション」で「罫線」を選択します。描画したい動的オブジェクト名を「動的オブジェクト名」項目で選択します。

図：キーブレイクで罫線アクションを設定



[OK] ボタンをクリックしてキーブレイク設定ダイアログを閉じます。
必要な設定は以上です。

図：出力結果

店コード	店名	仕入先コード	仕入先名	商品コード	商品名	今月仕入金額	前年仕入金額	前年差
10	フレンドストアー 本店	120	埼玉食品(株)	400	生鮮食品	53,804	35,460	18,344
				410	果実	77,950	67,119	10,831
				420	パン	29,843	12,234	17,609
				430	デザート	49,399	93,411	-44,022
				440	乳製品	62,277	93,173	-30,906
				400	生鮮食品	44,048	26,463	17,585
				410	果実	77,337	43,608	33,729
				420	パン	29,174	93,216	-64,042
				430	デザート	49,639	70,752	-21,113
				440	乳製品	59,509	47,635	11,964
141	(株)デリセゾン	141	(株)デリセゾン	400	生鮮食品	57,263	45,752	11,511
				410	果実	95,988	90,713	5,275
				420	パン	82,482	60,800	15,682
				430	デザート	92,051	89,277	2,779
				440	乳製品	28,177	16,403	11,914
				400	生鮮食品	62,950	15,008	47,942
				410	果実	45,139	78,654	-33,515
				420	パン	59,109	65,434	-6,325
				430	デザート	47,489	42,533	4,956
				440	乳製品	68,971	68,119	855
223	POP食品(株)	300	(株)神立川	400	生鮮食品	34,944	58,637	-23,693
				410	果実	14,019	99,314	-85,295
				420	パン	32,210	46,220	-14,010
				430	デザート	56,056	56,625	-599
				440	乳製品	55,638	67,654	-10,016
				400	生鮮食品	43,000	60,111	-17,111
				410	果実	90,042	97,184	-7,142
				420	パン	76,187	48,044	28,143
				430	デザート	40,496	62,916	-22,420
				440	乳製品	86,393	78,077	8,316
20	フレンドストアー 立川店	120	埼玉食品(株)	400	生鮮食品	53,647	46,348	6,799
				410	果実	53,260	70,038	-16,778
				420	パン	80,801	36,024	44,777

キーブレイクのタイミングに合わせて、罫線が引かれます。

4-6. 単一データ出力

4-6-1. 単一データ出力

図：単一データ出力

03-10 月度

店コード	店名
10	フレンドストアー 本店

上記のような単一データ（リスト形式ではないデータ）を出力するための設定について説明します。単一データ出力を使用するためには、Datamap エディタで以下の設定を行います。

図：単一項目設定

フォーム変数名	SHIRE_MONTH
ケーリーフィールド番号	11
データタイプ	单一項目
非表示	<input type="checkbox"/>
重複非表示	<input type="checkbox"/>
集計	—
総集計	—
キーブレイク	—

単一データとして出力したいフィールドの「データタイプ」項目を「单一項目」に設定します。以上で単一データ出力の設定は完了です。

補足事項

この単一データ出力の機能では、そのページの最初のデータを単一データとして出力することができます。

TENPO_MEI	SHIRESAKI_MEI	SHIIRE_MONTH
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)	03-10
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)	03-10
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)	03-10
フレンドストア一本店	(株)岡田屋	03-10
フレンドストア一本店	(株)岡田屋	03-10

データベースから上図のようなデータが取得されるとします。

サンプルでは、「SHIIRE_MONTH」のデータを出力するフィールドが単一項目指定されているため、全てのページで「03-10」というデータが output されます。ここで例えば「SHIRESAKI_MEI」のデータを出力するフィールドが単一項目指定されていて、4 行ごとにページが切り替わるような設定がされている場合、次のような出力となります。

1 ページ目：「埼玉食品（株）」が出力される。

2 ページ目：「(株)岡田屋」が出力される。

この状況を図で示すと以下のようになります。

TEMPO_MEI	SHIRESAKI_MEI	SHIIRE_MONTH
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)	03-10
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)	03-10
フレンドストア一本店	埼玉食品(株)	03-10
フレンドストア一本店	(株)岡田屋	03-10

----- 改ページ -----

フレンドストア一本店	(株)岡田屋	03-10
------------	--------	-------

上記の通り、そのページの最初のデータがそれぞれ出力されることになります。

4-6-2. 総集計値の単一データ出力

集計機能を使用して総合計値などのデータを單一のデータとして出力する機能について説明します。集計機能についての詳細は「4-4. 集計」をご覧ください。

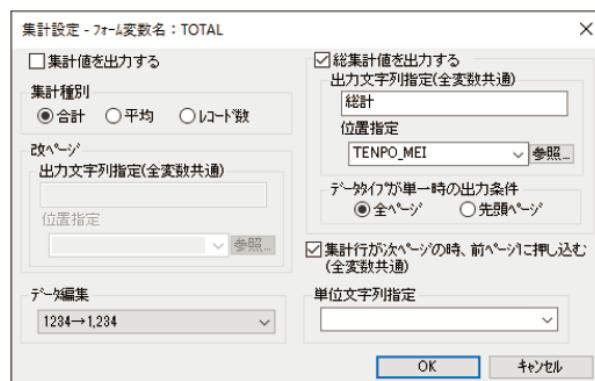
例えば、以下のような形で総集計値のみを單一データとして出力することができます。

図：單一データとして総集計値を出力

03-10 月度 合計 6,760,795			
店コード	店名	仕入先コード	備考
FC	フレンドストア一本店	120	埼玉
		121	(株) 岡田屋

この機能を使用するためには Datamap エディタで以下の設定を行います。
 まず、集計に関する設定を行います。フィールドビューから集計対象となるフィールドの集計項目をクリックして集計設定ダイアログを表示し、集計設定を行います。
 ここでは、総集計の設定のみを行います。

図：集計設定ダイアログ



[OK] ボタンをクリックして集計設定ダイアログを終了します。
 次に、フィールドビューの [データタイプ] 項目から [単一項目] を選択します。

図：単一出力設定

フォーム変数名	TOTAL
カレーフィールド番号	?
データタイプ	单一項目
非表示	<input type="checkbox"/>
重複非表示	<input checked="" type="checkbox"/>
集計	-
総集計	<input type="radio"/>
キーフレイド	-

以上で総集計値の単一データ出力の設定は完了です。

4-7. 総ページ数

<< 注意 >>

この Datamap エディタによる総ページ数の出力機能は、Create!Form の旧バージョンをお使いの方のための移行用機能です。新たに総ページ数の出力を行う場合は、Form エディタからページ変数をご使用ください。

ページ変数を使用したページ番号の出力とは別に、以下のような総ページ数を出力することができます。

図：総ページ数の出力

1 / 3
10-01 00:00:00

頁	前半差
32	-44750

この機能を使用するためには以下のような作業を行う必要があります。

1. 総ページ数出力用のテキスト変数を定義する。
 2. Form エディタで作成したテキスト変数を総ページ数の出力用として設定する。
1. 総ページ数出力用のフィールドを定義します。Form エディタでテキスト変数を作成します。
※ページ変数ではなくテキスト変数を作成してください。

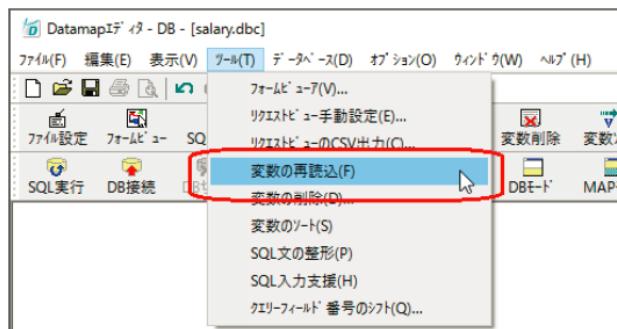
図：テキスト変数の作成



フォントなどを任意の設定し、Form ファイルを保存してから Form エディタを終了します。

2. Form エディタで作成したテキスト変数を総ページ数の出力用として設定します。Datamap エディタで以下の設定を行います。
- ツールメニュー [ツール]-[変数の再読み込] をクリックし、先ほど作成したテキスト変数をインポートします。

図：変数のインポート



Datamap エディタのフィールドビューから総ページ数を出力するフィールドの「データタイプ」を「総ページ数」に設定します。

図：総ページ数の出力設定

フォーム変数名	TOTAL PAGE
クリーフィールド番号	設定なし
データレイア	総ページ数
非表示	<input type="checkbox"/>
重複非表示	<input type="checkbox"/>
集計	—
総集計	<input type="checkbox"/>
キーフレイア	—

以上で総ページ数の出力設定は完了です。

5. 共通設定

5-1. 変数操作

ここでは、CSV用、Text用、XML用のDatamapエディタで変数を追加、削除、マッピング解除する方法を解説します。

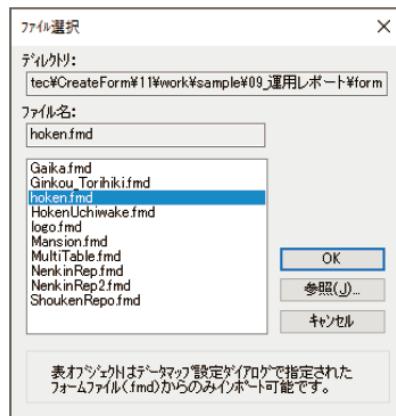
DB用Datamapエディタに関しては、「4. DBデータマップ」をご覧ください。

5-1-1. 変数インポート

Datamapファイルを新規作成する場合には、作成時にFormファイルを指定することで自動的に定義された変数が取り込まれます。しかし、既に作成されたDatamapファイルに対して、Formファイルで新たに定義した変数を取り込むには、変数のインポート作業が必要です。

変数をインポートするには、Datamapエディタのメニュー[編集]-[変数のインポート]をクリックしてください。[ファイル選択]ダイアログが起動するので、取り込む変数が定義されたFormファイル(.hst)を選択して[OK]ボタンをクリックしてください。

図：ファイル選択ダイアログ



選択されたFormファイルに定義され、かつDatamapファイルに定義されていない変数が存在する場合には、[変数追加選択]ダイアログが起動します。

図：変数追加選択ダイアログ



リストから取り込む変数を選択し、[OK] ボタンをクリックすると Datamap ファイルに変数が追加されます。

5-1-2. リストアイテム削除

Datamap ファイルに定義された変数をリスト上から削除する方法を解説します。

変数をリスト上から削除するには、変数リストから削除する変数を選択し、メニュー [編集] - [リストアイテム削除] をクリックします。削除を確認するダイアログが起動しますので、[はい] をクリックしてください。なお、変数リストで複数の変数を選択すると、選択したすべての変数を一括で削除することができます。

一度削除した変数でも、変数インポートすることで再びマッピングを定義することができます。

5-1-3. マッピング解除

変数に定義したマッピング情報を解除する方法を解説します。

マッピング情報を解除するには、変数リストから変数を選択し、メニュー [編集] - [マッピング解除] をクリックします。マッピング解除を確認するダイアログが起動しますので、[はい] をクリックしてください。なお、変数リストで複数の変数を選択すると、選択した全ての変数を一括でマッピング解除することができます。

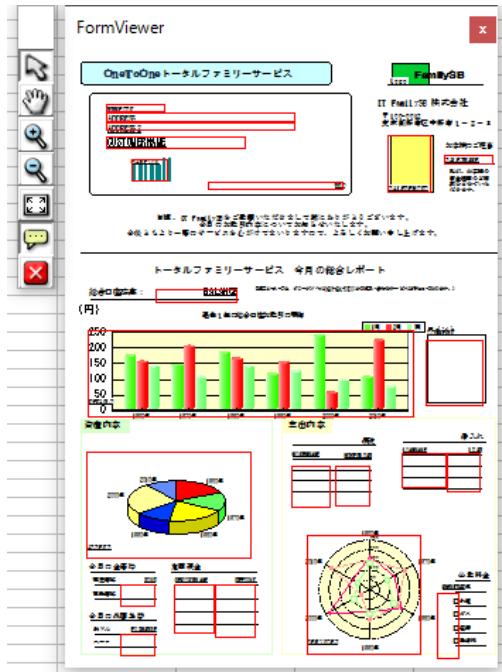
5-2. フォームビューア

定義された変数の数が多い場合には、変数リストから目的の変数を探すことが困難な場合があります。その様な場合には、フォームビューア機能を利用することで、Form ファイルのレイアウトを確認しながらマッピング操作を行うことができます。

5-2-1. フォームビューアの起動

フォームビューアを起動するにはDatamapエディタのメニュー[オプション]-[フォームビューア]をクリックします。(DB用Datamapエディタの場合は、メニュー[ツール]-[フォームビューア]をクリックしてください。)

図：フォームビューア



フォームビューアには、[データマップ設定]で指定されたFormファイルに定義されたオブジェクトが描画されます。また、マッピング可能な変数は赤い枠で囲われます。

5-2-2. マッピング操作

フォームビューアで変数上をクリックすると、Datamapエディタの変数リストで該当する変数が選択されます。その後は、通常通りマッピング操作を行ってください。

5-2-3. 変数インポート

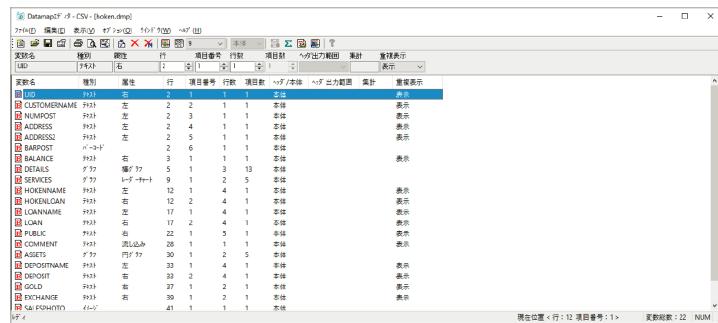
Datamapファイルに取り込まれていない変数が存在する場合、フォームビューア上の変数をダブルクリックすることでインポートできます。

5-3. 変数リスト

CSV用、Text用のDatamapエディタでは、変数の属性とマッピング情報を確認するための変数リスト表示が可能です。

Datamapエディタの表示モードには「マッピング」と「変数リスト」があります。
マッピング情報をグラフィカルに表示するには「マッピング」モードを指定します。Datamapエディタ起動時は「マッピング」モードに設定されています。
また、変数リストを全画面に表示したい場合には「変数リスト」を指定します。
変数リストには各エディタごとに、パラメータバーに準じた情報が表示されます。

図：Datamapエディタ - 変数リスト表示



5-3-1. マッピング定義

「変数リスト」モードでマッピングを定義する場合には、該当する変数をリスト上で選択し、パラメータバーで直接数値を入力してください。複数の変数を選択して一括で設定することも可能です。

5-3-2. 変数リスト印刷

変数リストを印刷する場合は、メニュー「オプション」-[変数リスト印刷]をクリックしてください。メニュー「オプション」-[変数リスト印刷プレビュー]で印刷結果を事前に確認することもできます。なお、変数リストのタイトルをクリックして変数の並べ替えを行った際は、変数リストに表示された順で印刷されます。

Create!Form 11

データマップエディタの操作 第2版

発行日

2019年4月

発行者

インフォテック株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25